

アタゴオルは猫の森 9

ますむら・ひろし

ATAGOAL is Cat's Forest

MFコミックス

MEDIA FACTORY

アタゴオルは猫の森 9

ますむら・ひろし

MFコミックス フラッパーシリーズ

ISBN4-8401-1338-6

C9979 ¥514E

9784840113380

1929979005146

定価：本体514円（税別）

雑誌52643-38

メディアファクトリー

波動王との冒険も終わりアタゴオルの森に帰ってきたヒデヨシたち
しかしそこには住民の気配がない……『根無』。
唐あげ丸の独演会はアタゴオルの名物、でもヒデヨシの独演会は
迷惑以外のなにものでもない、なのにドラネコ団が応援するのはなぜ?『独演会』。
唐あげ丸の演奏が録音され海賊版で出回っている、
そこで正式な収録の依頼が来たが……『モスモスッ葉』。
アタゴオルとソウベッタ森を舞台に繰り広げられる
ヒデヨシと仲間たちの活躍8話を一挙収録。
作者からの重大発表?のある解説『アタゴオル余波9』とともにお届けします。



ますむら・ひろし

昭和27年生まれ
山形県出身。
昭和48年デビュー作『霧にむせぶ夜』が
『週刊少年ジャンプ』に掲載。
その後青林堂に入り
雑誌『ガロ』を舞台に活躍、独立後現在に至る。
平成9年には『アタゴオル玉手箱』で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも意欲的に取り組み、
独自の感性で大胆に視覚化している。
中でも『銀河鉄道の夜』は
昭和60年、劇場アニメとして公開、
マンガファンだけでなく
宮沢賢治愛好家の間でも高い評価を得ている。

装画・ますむら・ひろし
装幀・多田和博＋岡田ひとみ
フォーマットデザイン・フィールドワーク

ATAGOAL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 ⟨9⟩

ますむら・ひろし



アタゴオルは猫の森 ⑨

ATAGOAL is Cat's Forest

第一話　根無（ねなし）



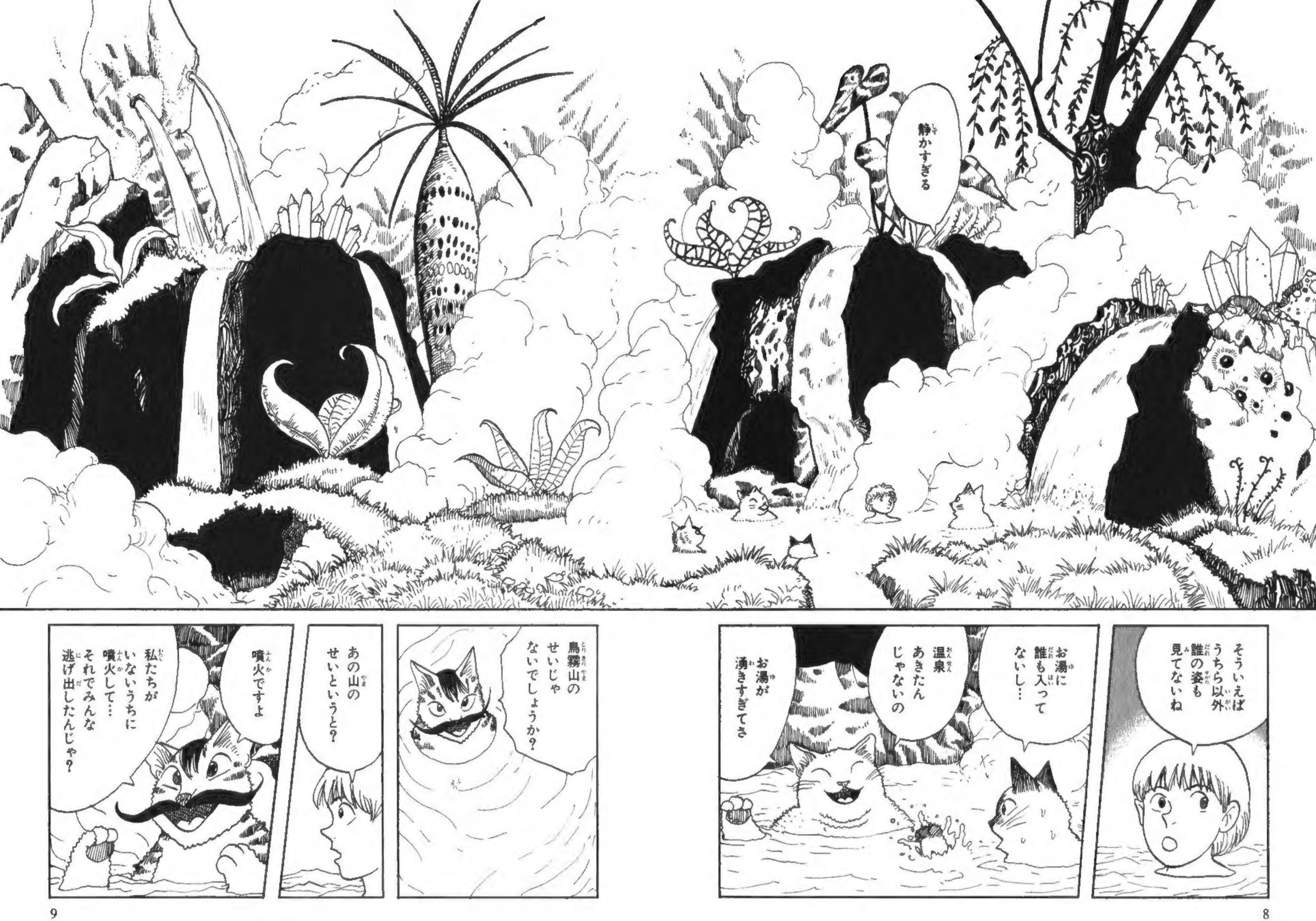

イエ〜〜〜ッ アタゴオル
ご帰還なのよーっ
あれっ 鳥霧山が
らっ
んっ どうしたん？
煙噴いてるぞお
小規模の噴火をしたようだな



小規模なんてダメダメ
大噴火しろおっ
山の頭 みーんな吹っ飛んじまえい
バチ当たりなことしか言えんのか
しかし凄い湯煙だねえ
お湯の湧く量がふえてますなあ
鳥霧山の活動と関係があるんだろう
しかしこれだけお湯が湧いて暖かいと植物たちも見慣れないやつが咲いているねえ
ああ
あれなんか
常夏の気候じゃないと咲かないミズヌキ花だし


ねえ この花はなに？
パンプ草の系列のようだが
見たことのない花だね
物知りパンツでも知らないものがあるんかよォ
甘い匂いがしますねえ
甘い？
酸っぱい匂いじゃないの？
おまえの鼻は相変わらず変だねえ
甘い匂いだよ


甘くても
酸っぱくても
同じだろ
会話の
しようがない
到着
あ〜〜〜っ
ひとっ風呂
浴びて行くか
そうだな
ハーーッ
ふう
私は家に帰るよ
しかし
どうも
変だな
変？


静かすぎる
そういえば うちら以外 誰の姿も 見てないね
お湯に 誰も入って ないし…
温泉 あきたん じゃないの
お湯が 湧きすぎてさ
鳥霧山の せいじゃ ないでしょうか?
あの山の せいというと?
噴火ですよ
私たちが いないうちに 噴火して… それでみんな 逃げ出したんじゃ?


それはありうるな
えーーっ それじゃあ これから 大噴火が あるってことですか
大噴火 大歓迎
みーんな吹っ飛んじまえい
しかし本当に誰もいなくなったのかな
にぎやかな所へ行ってみようぜ
ん——
ホントに静かだねえ
ここに誰もいないなんて…
あれ
誰か来るぞ


ぐーっぐーっ
オレたちゃ欠食ドラネコ団ぐーっ
おっ
ドラネコ団だ
ひっさしぶりだなあ
しーん
らっ
あれ来ませんねえ
気配が消えたぞ
変だなあ
にゃっ


やあ
みんな
なんだ
ツキミ姫か
ドラネコ団
見かけませんでした?
見なかったよ
アタゴオルに帰って
誰も見ていない
どうも
おかしいね
やっぱりみんな
逃げたんですよ
大噴火が
起こるんです
発眼草って
この辺に咲いて
ないかなあ



発眼草なら
この裏に咲いて
いるはずだよ
ペタッ
ホラ
なにやってんだ
ツキミ姫？
ああ…
やっぱり
なにが
やっぱり
なのよォ
みんな 手を
つないでごらん
ギュッ
んっ
にゃあぁ


あーっ
ぐーっぐーっ お魚さんは おいしいぞーっ ぐーっ
いらっしゃい 安いよーーっ
どれに しようかな
どーなってんだ もう
魚屋が ボンヤリかすんでるぞ
・・・
タコはニュルニュル おいしいぞっ ぐーっ
ドラネコ団も かすんで ますよォ



オーイ
ドラネコ団
ひっさしぶりだなーーっ
スッ
らっ
消えちまった
へへっ 魚屋も
消えちまったぜ
魚屋なんかに
用はないのよ
用があるのは
魚ちゃーんーっ
では
万引き
させて
いただき
ます
あれっ
うわわっ
魚が
さわれないぞオ
どーなってん
だよ パンツッ
ふーむ
さっぱり
わからん


なにか原因があるはずだ
イエーーッ
我が家なのよーーっ
ら
くっそ〜〜っ
取っ手がさわれない
これじゃ家にも入れないぞォ
あれっ
わっ
らっ
整理整頓されてますよっ
オレの部屋じゃないっ
どうしたん？
あっ

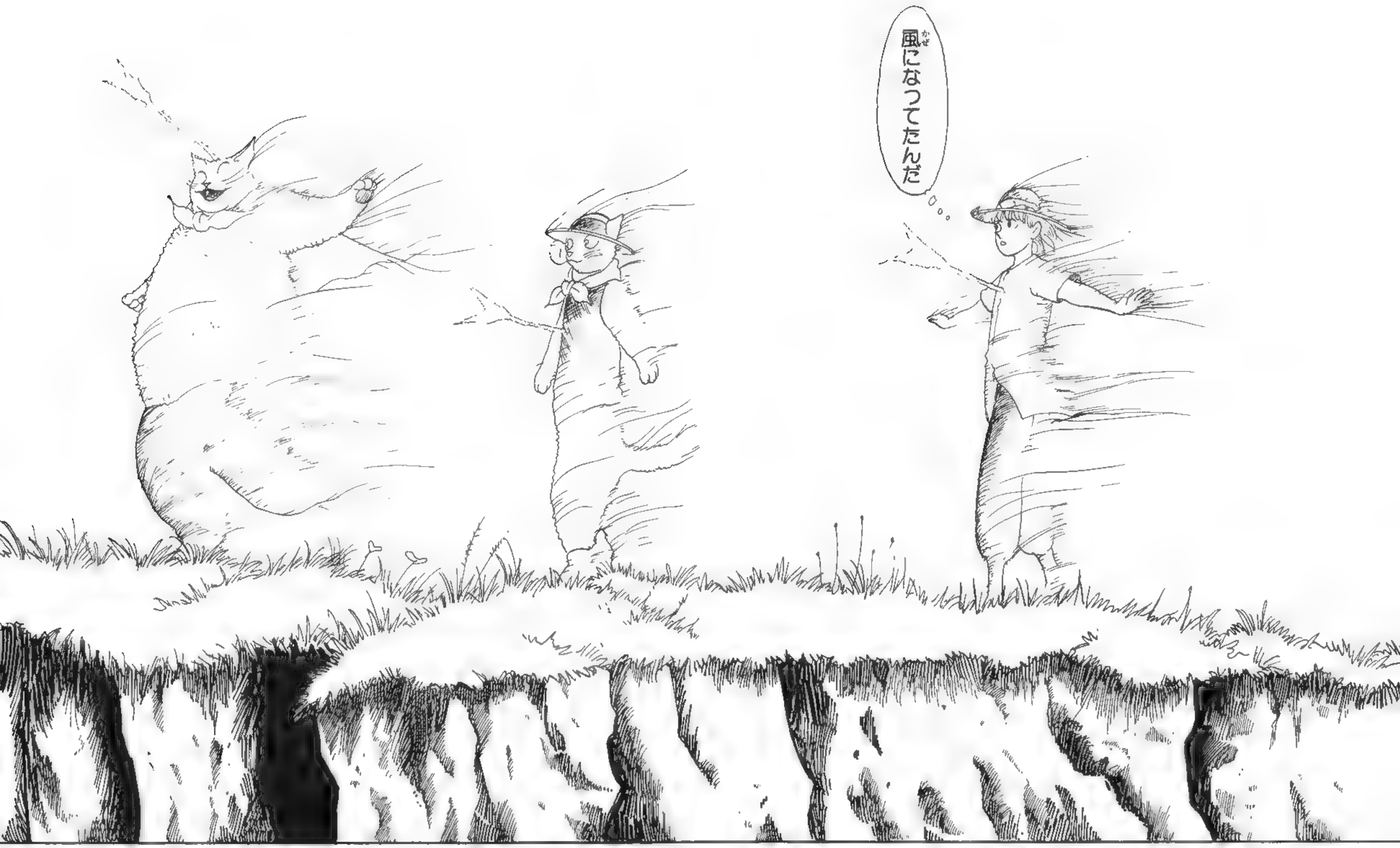

これは…
ツキミ姫 なにか見えるんですか？
うすぼんやりと…
なにが見えるのよォ
欠食ドラネコ団
2日後
くっすおーーっ オレの家をっ
ひもじいよォ
死にそうだあ
なんか食わせてくれぇ
じたばた
2日も なんにも食べて ないと……
ヒデヨシ じゃなくても 苦しいよなあ……


こりゃあ本気で原因を見つけないと大変だな
銀しぶき海でオレたち なにか変な体験したんだろうか
うーむ
どうも気になることがあるんだ行ってみない？
こらーっ待てーっ
おまえたちだけでなんか食う気だなっ
ちがうよっウルサイから来るなっ
ますますあやしい
んっ
なんだよコレーッ


こんな花食えねえぞォ
ジャマだからだまってろよ
この花の下を通りぬけた時
なんだか妙な気持ちになったんだ
妙な気持ち!?
あれっ
葉脈にっ!!
おおっ
ホントだオレの顔がっ
通りぬけた者の顔が葉脈に記録されるって…
そうか……これは「幻想植物史」に載っていた


根無矢草……
伝説の花だ
根無矢草？
確か…ツルだ
そのツルの先に
ふれてみて
うっ
矢だっ
その矢のせいで
森の者たちが
見えないんだ
らんららん

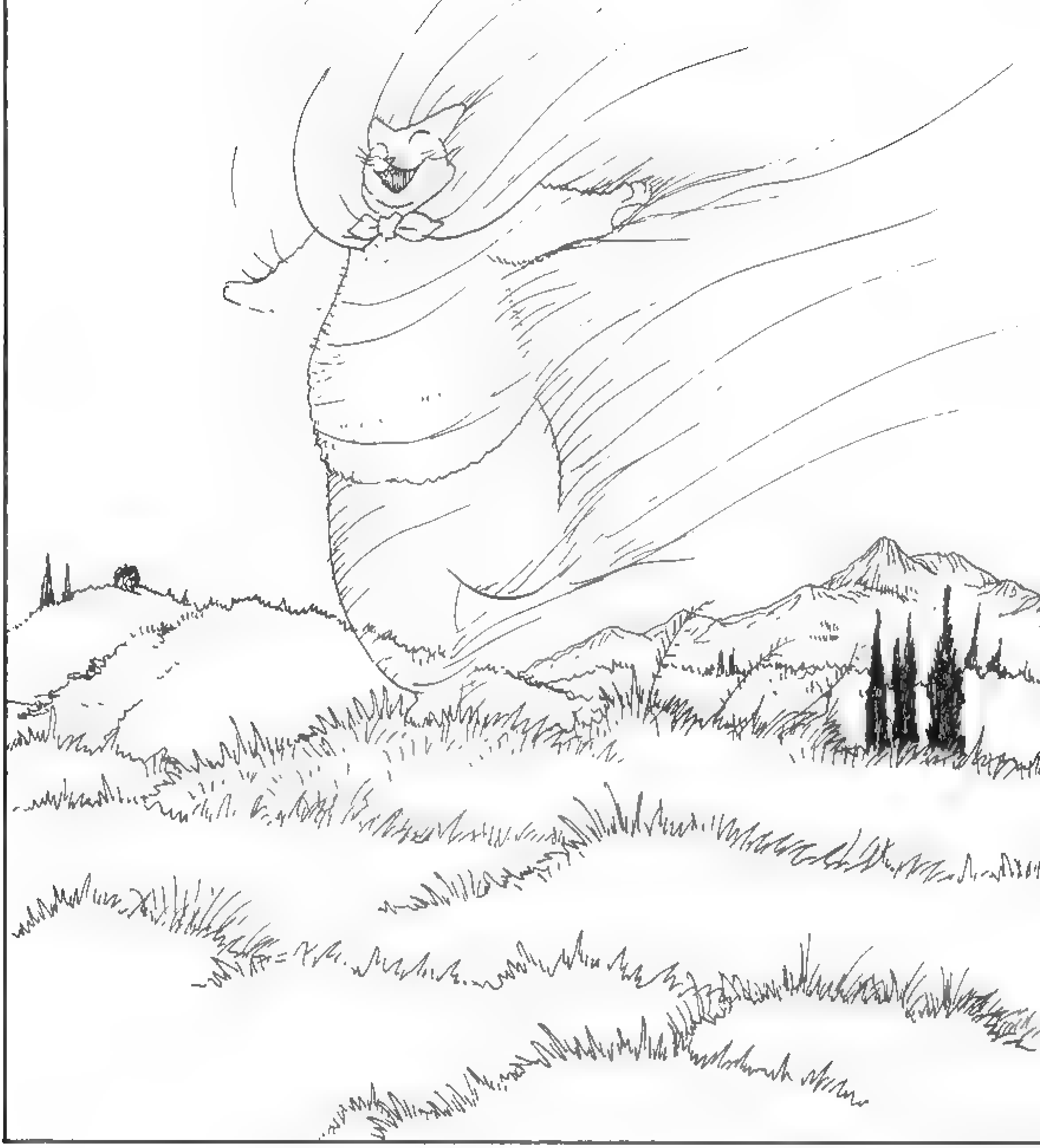

根無矢草の根無ってなんなんだ？
土地に定住する者は 根を生やし
旅する者は根無しなのさ
らっ
矢が消えてきたぞ
さあ さあ おいしいトットコ焼きだよォ
おっ
まわりが見えてきた
そうか
森の者が見えないんじゃない…
オレたちが旅をしすぎて


風になってたんだ


風よーーっ
オレは風なのよォ
根無矢草の下を通った者すべての胸に
矢がささるわけじゃない
旅する者だけが矢を受けるのだ
旅する者か……オレたちはずいぶん長いこと海を旅して来たからなあ
ああ
根無しになっていたんだ
風なのよォ

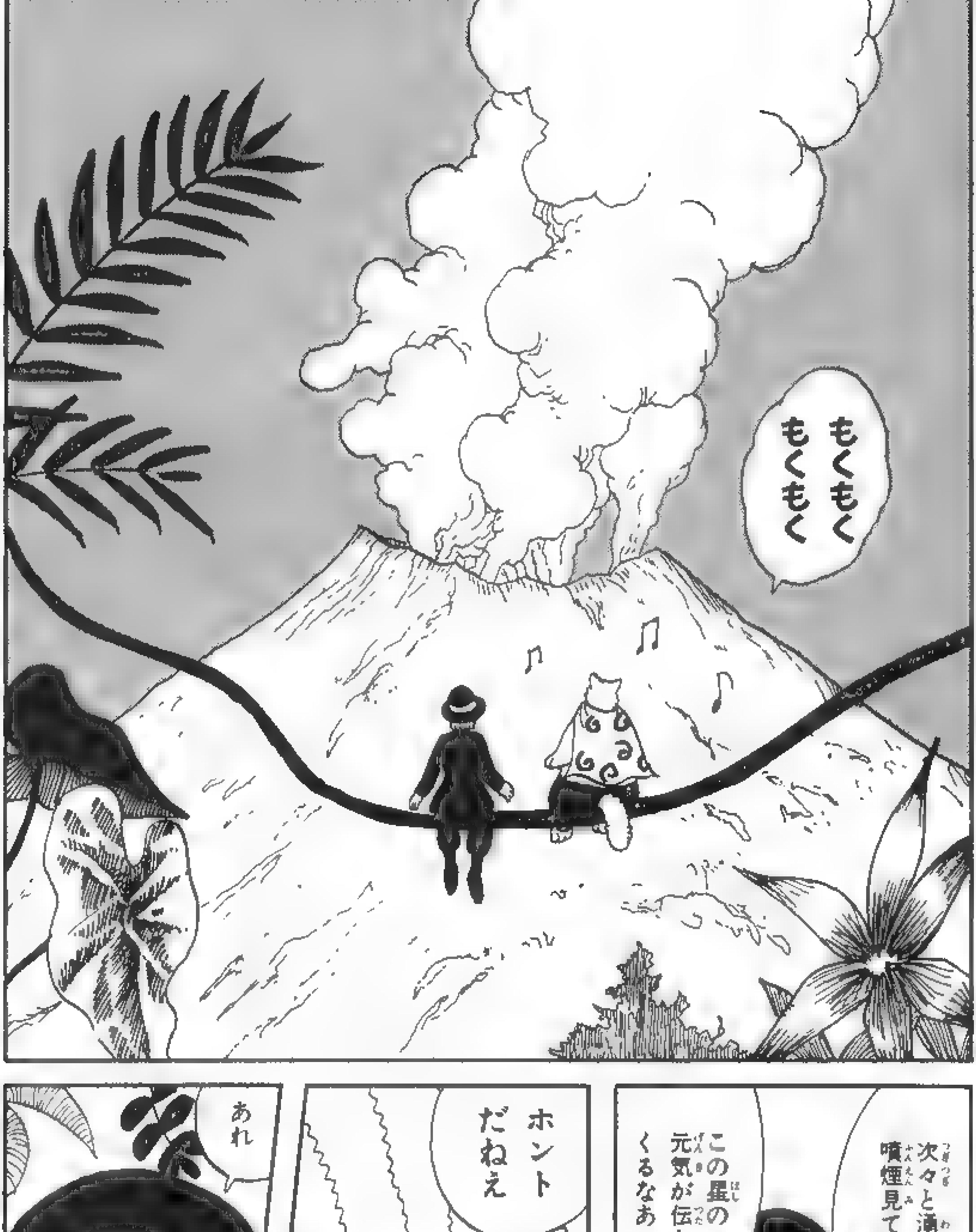

どこまでも飛んで行くのよォ
通りすぎていく
よそ者は
みんな風だ
だが
森にとどまりすぎた
者たちは
根を生やしすぎて
風が見えなくなる
ねえ 君も
その根を
切り落とせば

風になれるよ



第二話　火口観察




もくもく
もくもく
次々と湧いてくる
噴煙見ていると
この星の
元気が伝わって
くるなあ
ホント
だねえ
あれ


おーい
ヒデ丸
どこへ
行くんだぁ
ガムガム博士の
手伝い
でーす
ガムガム
博士？
東32が
4度上げ
4度
上げ
あーっ
オッホン
ガムガム博士は
そなたかな？
いかにも
私がガムガム
ヨネザアド
火山局長
である
…で 君は？
ワシは
鳥霧火山の
大研究家
スミレ博士だよ


ほう 地元での研究となると
観察記録も相当お持ちでしょうな
そーいう地味なことはやらんのですわ
地味!!
…するとどんな風なやり方を?
突貫主義ですがな
目的に向かってガンガン突撃するのよ
噴火する山にも?
もちよ
そんなことしてたら命がいくつあってもたらんぞ
こーして生きておるぞ


研究とは
あの噴火口に
突撃することなんかじゃない…
常に 安全を
意識して行うのだ
じゃがアンタ
こんな所から
いくらながめても
火口の内部は
見られんぞっ
ワシなら
見れるがね
お主
本気で
言っとるのか
見れるぞ
ワシは突貫
研究家だからな
噴煙は複雑に
上っているから……
火口が観察できれば
ヨネザアド
火山学会誌
「ドッカンコ」に
発表されるだろう
もらった
その発表は
ワシがやるうっ
で 行ったのか


ああ
無謀が毛皮着てるだけの男だからな
ヒデヨシはどーでもいいがヒデ丸が心配だな
進むのじゃーっ
ガッ
火口をのぞくのじゃ
こらーっヤメロッ
ゴッ
博士ーーッ死にますよーっ
わははは


こんな噴石の雨なんざぁチョ[redacted]イもんじゃよ
うっ
博士ーーっ
圧死したな…
ゴロン
うがが
ありゃ
鉄の鎧あるから助かったわ


やっぱ無理じゃのう火口に登って行くのは…
当たり前だ この命知らずか
灰かぶりになったで ひとつ風呂浴びて行くか
ん
お主 ツケヒゲなのか？
そーよ ヒゲを取ったら ヒデヨシ君
イエーッ
…なんだか バカ猫に関わっちまったなあ
んっ
これは水盤黄岩
ザバ
スイバンキ岩？
それがどうかしたのか


この森のあちらこちらでお湯が湧くのは鳥霧火山のせいばかりではなく この岩石も関わっているのだ
地中の熔岩を引き寄せる性質があるといわれている
へえっ
・・・
これは探してみる価値があるな
どーれ あきらめない男としては
地面がダメなら空から行くかな
空から行くって!?
気球屋ですか


でもココマズイんじゃないですか
ヒデヨシ君立ち入り禁止でしょう
ワシはスミレだからいいのじゃ
この野郎なにしに来たっ
ワシはスミレである研究のために気球をタダで借りたい
やかましいヒデヨシッ
今までに気球を何台盗んだり破裂させたと思ってるんだ
よくも平気でココに来れるもんだな
とっとと帰れっ
うっ
フラフラ
眠れ親父
夢の中で説教してろ
ワシの目ん玉でぇ



火口をのぞくのよォ
進めっ ドンドン 進むのじゃ
博士
これ以上近づくと 危険です
危険なんか こわく ないぞっ
噴石が 当たったら 気球は もちませんよ
なにやってんだ あの気球



噴火口に向かって行くなんて奴はアイツしかいないな
さあさあ近づいて来たぞ
ヒデ丸火口内部を写生するんだ
危険すぎますとても絵なんて描いてられません
そんな弱音をはくとテンプラみたいな男になるぞ
ワシのように大きくかまえてな
ジュ
パ
うっ
うわ
キャ〜〜〜ッ



博士ーーッ
ヒモ引っぱってえ
ヒモ!?
ぐっ
バフッ
パッ
わおう
落下傘を
用意するとは
さすがヒデ丸
風に乗って
西に流れて
行くなあ
おっほっほ



噴火口は観察できないが
森は見渡せるのう
しかしずいぶんあちこちから
湯煙が上がってますねえ
お湯が湧くのはいいことじゃが
[redacted]が[redacted]いたら もーっと素晴らしいぞな
わははは
ふう
トン
しっかし
ドス


ツマランのう 落下傘ってのは
ツマラン?
そうよ
キャーーッ 助けてえ バキッ バリバリ 痛ってえーーっ
コレだよ 空から落ちるって コーじゃなくっちゃ
普通それって 死にますよ
それにしても すごい湯量 ですねえ
湧きすぎ だよなあ
しかし ここは どのあたり でしょうか?
闇鍋沢の 奥じゃないのか
んっ


スミレ博士とやらずいぶん無茶な男だのう
だが学者とはそういう部分も必要なのだが
アレは研究心からなどではなくタダのヤジ馬なのです
失敬だぞテンプラ君
ワシは本気で噴火口内部をのぞこうとしとるのじゃ
そーしてその観察ぶりを学会に報告して
学会誌「ドッカンコ」に載るのじゃ
それを大量に手に入れてアタゴオルの森の一軒一軒に売りつけて……刺し身で一杯
なんか考えているぞ
ろくなことじゃないな
ところでお主らワシが心配でやって来たのか
かわいい奴よのう



ヒゲ丸が心配だから来たんだよ
あれっ
これはっ
おお
なんと見事な水盤黄岩
あっ
こっちにも大きなのが
素晴らしい
こいつはスゴイぞっ
水盤黄岩…って
パンツ 知ってた?
幻の鉱物の中に そんな名前があったような…



コーン
コン
豆腐でも けずるみたいに スコスコ 割っていくぞ
ワシの家は 石屋だからね この手の石は 楽なもんさ
フーム うまい もんじゃのう
よーし
こんな もんだろ
しかしなんなんじゃ この石の大鍋は?
フフッ
あっ

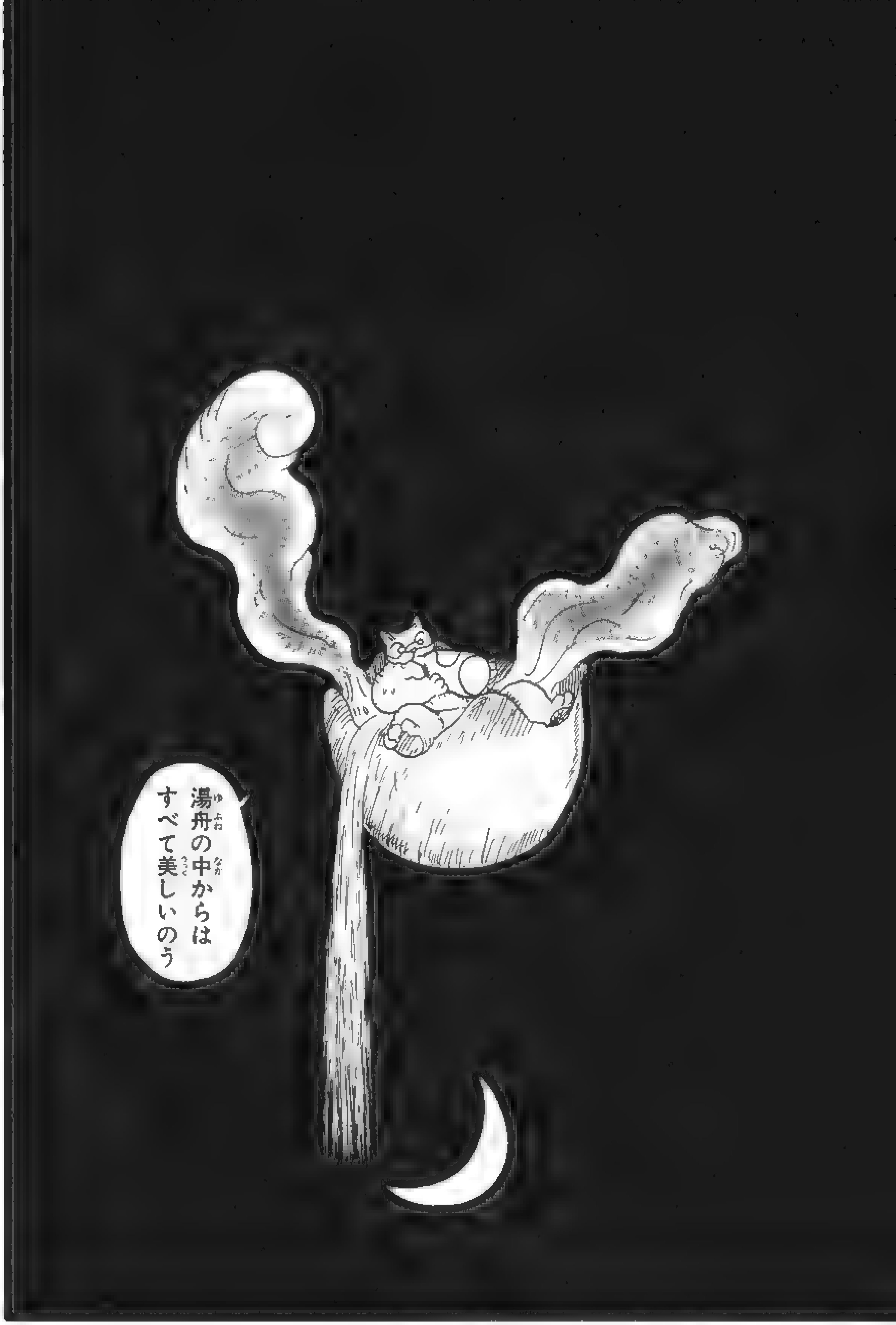

ズドーン
おっ 小規模噴火
シュッ
らっ♪
お湯が岩から吹き出しましたよ
すんごいぞーっ この岩すんごいぞーっ
う〜〜っ
い〜〜っ


極楽じゃーっ
ザーッ
ああ ホントに
いい気持ち
壺湯ってやつは
格別だなあ
ザーッ



世界中がお風呂の中にいるような気分だわっ
フワ
ら
ラッ
あっ
浮かんだっ
水盤黄岩の壺湯は中に入った者の気分に反応するんだよ
もっとジンワリと浮くものだが
派手な奴だのう
おお
今まで色んな所で観察したが
今夜は


極楽からの観察だな


湯舟の中からは
すべて美しいのう

第三話　ホン・ノ・イノチ




ぶあっくしょ――いっ
ホーラ風邪ひきますよォ
みんなあの金色の魚のせいじゃ
野郎やっぱり生きていたくぁっ
まだ冷たいのに蛇腹沼に飛びこんだりするから
ひとっ風呂浴びれば治るわい
さ〜〜くっ早く行かないと約束の時間すぎますよ


わははっ
ワシに会いにヨネザアドから来たんじゃろ
待たせておけいっ
オウッ
高級料亭じゃないと語らないと申しておくれ
ああもう!!
せっかくヨネザアド古代史館の館長さんが面会にいらしたというのに
博士は あとから来て下さい
オイラ先に行きます
約束の時間がすぎてしまったっ
ぶあっくしょーい
博士ーっ
おお ヒデ丸
館長くんはどーした?



宿にはいません
パンツ君の家に出かけたそうです
なにーーっ
パンツだとォ
ワシだけに会いに来たんじゃないのかーっ
どうも初めまして
私がヨネザアド古代史[redacted]のボヨロンです
我が古代史館になにやら寄贈したいとのことじゃが……
実はこれなんです


うわっ
これは幻の書「ジャガモンサ」ではないかっ
森の洞窟の中で発見したのです
3000年も前の書物じゃぞ…よくぞまあ現存したものじゃ
そっけな古本に会うために
このスミレ博士との面会をすてたのですかっ
おっ お主がスミレ博士か
ヒデヨシ 勝手に入ってくんなよな



そ──よっ ワシが アタゴオルの 古代史研究家 スミレ博士 だよっ
館長ポヨロンだ よろしくな
ところで アンタも見なさい
「ジャガモンザ」が この世に残って いたんだよ
こんなボロボロの 本じゃあ
ページもめくれ ないべよ
うん さわったら くずれるから
薬品をかけて 一ページずつ 固めていくのさ
そうした作業をする 修復員はワシの 方で用意するが
しかし パンツ君
こんな 貴重な本を 本当に寄贈 してくれるのか
買い上げるという 形でお礼したいが
お礼など けっこうです 寄贈させて 下さい


ありがたい
言葉だ
その言葉
忘れなさい
買い上げるって
いくらなのじゃ?
この本の貴重さは
お金にかえられない
ものだが…まあ
30金貨ですな
さぅ
30金貨!!
パンツ君ーっ
寄贈なんて
ヤメルのじゃ
さささっ
30金貨じゃぞォ
学問には
金がかかるっ
その金ワシに
寄贈してくれい
ぶっ
んっ


ぶあっくしょーんっ
あっ
うわっ
ひえーーっ


悪夢だ
あ〜〜っ30金貨がぁ
おまえねえお金の問題じゃないだろう
そうだよっ「ジャガモンザ」には古代王国の歴史が記されていたんだ
誰も知らない歴史がおまえのクシャミで消えてしまったんだぞ
散らばった粉集めれば元にもどらないかよォう〜〜っ
無理だよっ1発30金貨のクシャミだな
くは〜っ
翌日
帰る？


確か
スミレ博士にも
会いたいという
話だったのでは？
しかし……
スミレ博士に
会いたいとは
どんなワケ
ですか？
「ぼす・とみるる
はぐん・ぺるめる」
あんな男に
もう
かかわりたくは
ないのだが…
うーーむ
「ゼラ草乱紀」の
最後の部分…
「そして 長い杖は
振り下ろされ」ですね
ああっ
あの本は
ここで切れて
残りはわから
ない
ところだ
もそもそ
「はぐん・ぺるめる
すんわか・ほかか
いるりん・ほりん」


えっ
それって…「杖は振り下ろされ雪王は銀雷を光でくるんだ」となりますが!?
あの本の後半の部分じゃないですか?
うむっワシもそう思う
この手紙をくれたのがスミレ博士なんじゃ
えっ
これってヒデ丸が書いたんだろう
なにっヒデ丸君がっ
ハイ
去年の今頃赤タンポポの季節です
赤タンポポって毒タンポポですねっゲラゲラ原に群生してますな
あんな所に行くのはヒデヨシだけだろう



私 昨日 行って 来ましたっ
全身しびれて とても良いですよォ
ええっ
去年 スミレ博士が あの野原で さわいでたんですが
急に・・・
いかにも 毒っぽい匂いが しますなあ
この匂いを 吸いこんでいると しびれて くるんです
あれっ



くえっふっふっ
しびっ
しびびっ
よーー
諸君
最高じゃよ
このしびれぶり
うっ
ああ
なんて
強烈な
くははっ
なんだ
この感じは
うはははっ
たまん
ねーーっ
くーっ
くーーっ



どりゃあ
あっ
わははっ
あっ
やっぱりけっとばした
みんな早く逃げないと
ははは
毒だっ
毒が降ってくるぞっ
こんなのよけるの
簡単さ
ふはははっ



あれっ
体がっ
ははは
しびれて
うまく
動かないよっ
うっ
うわあっ
真っ青だっ
真っ青？
タンポポが
真っ青に
燃えている
なに言ってんだっ
テンプラ



んがっ
ペタッ
ぐひっ
うっ
ほんとだっ
真っ青のタンポポ…
どうしたテンプラ
……
大変だっ
みんなかたまってしまった
し〜〜ん


スミレ博士は毒なんかで死にはしないけど
他のみんなはだいじょうぶかな
あれっ
!
オレはいったい…
うっ


うわ
いえーっ
どうなってんだ
オレは
死んだのか?
いや わからない
体から離れて
しまったみたい
だけど


死ぬわけねーべよっ
こんなに気持ちイイんだから
おまえは死なないだろうが
オレたちは死にかけてるのかもしれない……
凄い雲の谷だ
あっ
んっ
なんだこれは
……
うわっ…
ここって……


死んだ本が来る所だ…

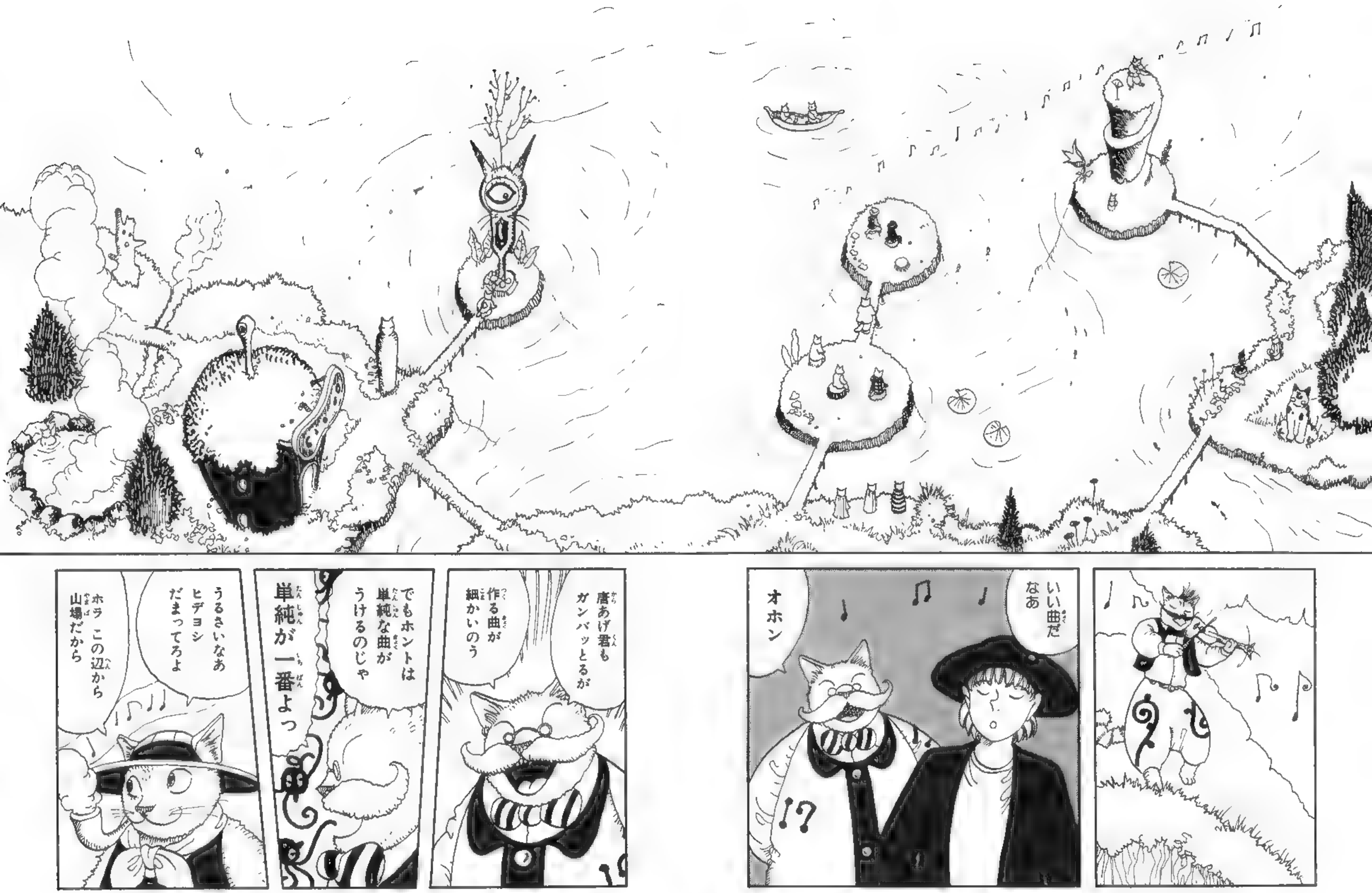

死んだ本
ああっ 地上から消えてしまった古代の本たちだ
凄いよ ホラ
これなんかっ 4000年前の博物誌だよっ
ズブッ
ズブブッ
ばらへん ぶるこん
ぐるも うっすらん
そうか スミレ博士はこうやって本に入って言葉を聞いたのか


ああなんて すばらしい 大変な 発見だっ
ワシが見つけ たんじゃよォ エッヘン
でも… 地上から消えた本が みんなココへ 来ているわけでは ないようだな
そーなんじゃよっ ほらッ ワシが カタツムリ社を おどかして出した 「やっぱりタコだらけ」
あれなんか 社の親父に みーんな 焼かれてさ
うーむ ……
たぶん!!
てっきり ココにあると 思ったのに ないのじゃよ
どういう ことだ パンツ君
たぶん
ああ 消えても ここに やってきた 本たちは


ほんとうに伝えたいことがあるんだろう

第四話　独演会(どくえんかい)




いい曲だなあ
オホン
唐あげ君もガンバッとるが
作る曲が細かいのう
でもホントは単純な曲がうけるのじゃ
単純が一番よっ
うるさいなあヒデヨシだまってろよ
ホラ この辺から山場だから


にふっ
バシャッ
らっ
金色の魚だ
唐あげ君の音楽を嫌がってはねておるのじゃな
んっ


旋律に反応してる
なんて利口な奴なんだ
ヒデヨシよりはるかに音楽を知ってる
金色の魚様かじらせて下さあああい
唐あげ丸さんの音楽が気に入ってはねてるんだ
そのピッカリしたおなかをムッシャリコさせてくれえっ
ぜ〜〜ったいしちゃっちゃうよ
唐あげ君の音楽ではねるんじゃから
ワシの独演会でもピンピンはねさせちゃうわよお
おまえの独演会!!


そういえば
唐あげ丸さんが
発表会を
開くたびに
おまえも
やってるようだな
誰も
聞いて
いないけど
真の音楽とは
孤独なものじゃ
ヒゲ丸にたのんで
伝言林で宣伝
しとるのじゃがのう
いやあ
唐あげ丸さんの
演奏は
相変わらず
すごいなあ
まったく
アタゴオルの
宝だよ
ごつ
観客が
帰って
来ますよ
ああ
では
始めますか


音楽好きのみなさん
こちらもヨロシクでーす
すばらしい音楽会でーすヨーローシーク
んっ
どれどれ
うっ
「アタゴオルだんとつの万能猫 スミレ博士の独演会」
「むせび泣く調べは貴方の心を溶かしましょう」
誰がヒデヨシのつけ髭野郎がやる騒音など聞くものか
ドラネコ団はスミレ博士の手先だったのかい？
あんな奴と関わらない方がいいぞ じゃあな


ゴォ
手先だとォ・・・
クヤシイですねえ ビラッ葉まきやめましょうか
そーは いかないぜ まきまくるしかない
音楽会だよ
ステキな音楽だよ
ツキミ姫 ほら 音楽会です 来て下さーい
えっ
「アタゴオルだんとつの万能猫 スミレ博士の独演会」
ドラネコ団がどうして こんなビラッ葉を?
わからないなあ



わかっちゃったのじゃよ〜〜っ
ワシの入魂の弦さばきにシビレたのじゃ
単純なオツムだねえ
いつもおまえの唄や演奏をヤジってるんだぜ
なんか企んでるんだよ
なぬ?
へんっ
なんでもかんでもイイのじゃ
ビラッ葉まけば客は来る
断固ハリキルわよ〜っ
そこの元気なお方
なんだね?
ゴホッ
ゴホッ
先生しっかりして下さい


ヤンペ薬局ってどこにありますか
明日あるワシの音楽会に来てくれるのなら案内しようぞ
はいっお願いします
犠牲者2名
タイコや踊りなんでもござれじゃよ
わーっ楽しみだなあ
ごほっ
ワシもヤンペ薬局に用事があったのじゃよ
ところで そちらの方セキがひどいようじゃが
喘息で苦しんでいます
私は書道家で文字を書くのにも支障がありまして…
旅の方にいただいたヤンペ薬局の薬が良く効いたので……
なるほど


ところで
パンツ君ら
どーして
後ろをつけて
来るのかね
おまえが
旅の方を
だまして
酒をタカったり
しないように
監視してるのさ
ほほほ なにを
おっしゃいまする
もーすぐ
ワシの懐は
温かくなるのじゃよ
いえ〜っ
親父〜っ
ホーレホレ
これだ
よーっ
凄え
抱々草じゃ
ねえかっ……
売ってくれ!!

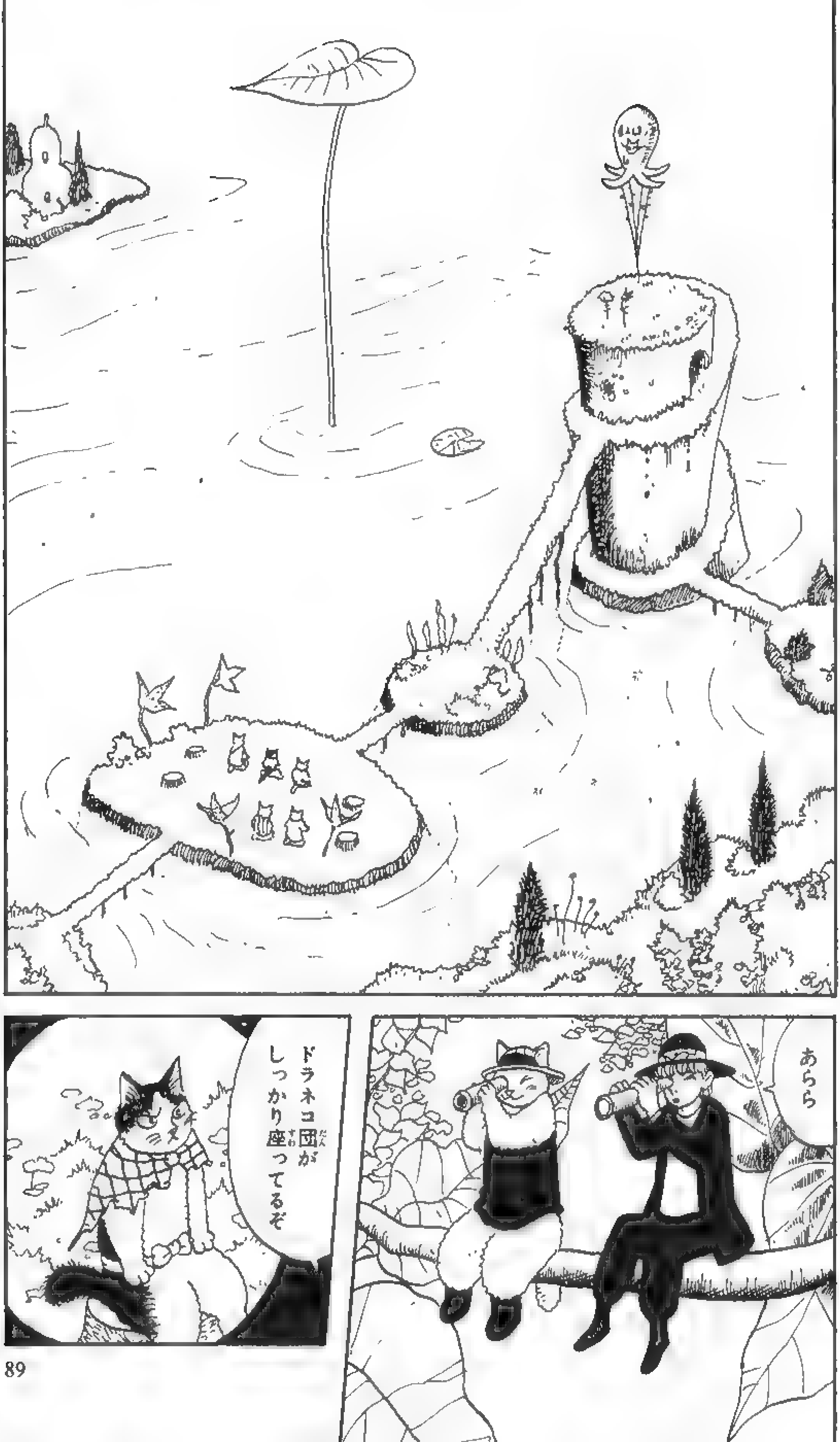


売りましょう
銀貨3枚
銀貨3枚
なに言ってんだ
おめーよーっ
!?
安く仕入れて
安く売りゃなきゃ
薬草欲しがる者に
高く売ることになる
んだぜ〜〜っ
だーーめっ
銀貨3枚
銀貨1枚以上は
出せないなっ
んーじゃ
銀貨2枚
これっきりっ
だからよう
銀貨1枚しか
出せないって
うーーっ……
それじゃあ
「銀貨1枚と」
「明日 ワシの
音楽会を
聞きに来る」
これでどーだ
ごほ
ごほ
銀貨2枚で
いいや…
ええっ
ゴヘ
ボヘヘ
先生しっかり
してっ



喘息の薬を下さいっ ヨネザアドからやって来たんです
遠方からありがとな
ホラ
これが効くぞお
不思議な匂いだね
親父さん これはなにが入っているのかな……
ヨシクレ草と…パガッ葉 でもこの甘酸っぱいのがわからない…
フッフッフッ さすがのパンツもこれは わからないだろう
貴重な…うちの秘密なのさ
これを手に入れるのがなかなか大変なのだよ
はあ…
スーッとするっ
あれ
この匂い… オイラどっかで…？
匂い…？ すあ〜〜っぱり感じないがのう


この薬 ありったけ 売って下さい
そうして あげたいんだが なにしろ少なくてなあ しかも いろんな方が 欲しがるから…
しみったれたこと 言わんで ドーンと売れよ
足元見るんじゃ ないわよ
足元見る だとォ
貴様にだけは 言われたく ないぞっ
いつもいつも 貴重なものを 高く売りつけてっ
らっ
あははははっ
キンキラ キンキラ あははっ
あっはっはっはっ
キンキラキン
アイツ 変な すっとぼけ方 始めたな
言葉もない…
翌日


あらら
ドラネコ団がしっかり座ってるぞ



あんなにビラッ葉まいたのに
2名しか来てませんねえ
来るわけないだろう普通
先生……なんだか様子が変ですねえ
昨日薬局の親父がコレ聞くの嫌がって銀貨2枚払ったんだぞ…
始まって少しの間聞いたら引き揚げよう
喘息一家とドラネコ団かあ
「へったくそー」とか「魚ドロボー」とかヤジる気だな
負けないわよ〜っ
それではただいまより
ホシノミヤ・スミレによる独演会の始まりで――す
イエ〜〜〜ッ みなさ〜〜〜んっ お待ちかねーっ



うわっ タイコとかギターじゃないのか
バイオリンなんか弾けるのかよォ
弾けます
楽器は心で弾くものじゃ
聞けっワシの即興節
「カエルのお祭り」
キィー!!
ゲェ
キィー!! ゲェギー!!
ガギー!!
なんだ コレはっ
うわあ
逃げろっ
早く逃げるんだ
ひえーっ
ふっ
そんなこともあろうかと…
カチッ


ドゴン
わっ
橋が吹っ飛んだっ
あいつ
逃げ道を ふさいだぞ
さーっ 聞きな さーい
ガゲゲ
ゲェ
ホーレホレ
やめろっ やめて くれーっ
ゲッ
うまい
ゴォ
スミレ博士 最高ーーっ
もっと弾いてっ 最高だあ
ギッ
ゲロロ
おほほっ 最高だとォ
乗ります 乗りまくりますっ


変だなあ ドラネコ団
ヤジらないで 誉めてるぞ
スーーッ
ミーーッ
レーーッ
ゴォ
いーぞーっ
あっ
ポロッ
あっカツラ
耳栓ドングリ 落とした
ぐわっ 汚い音
ゲ
先生 しっかりっ
うう…
ゲェーーッ
耳栓ドングリだとォ
失敬な 奴らだあ
耳栓 取って 堂々と 聞いてみろっ
ドス
ドス
うわっ 下りて 来るぞっ
親分もう 限界ですっ



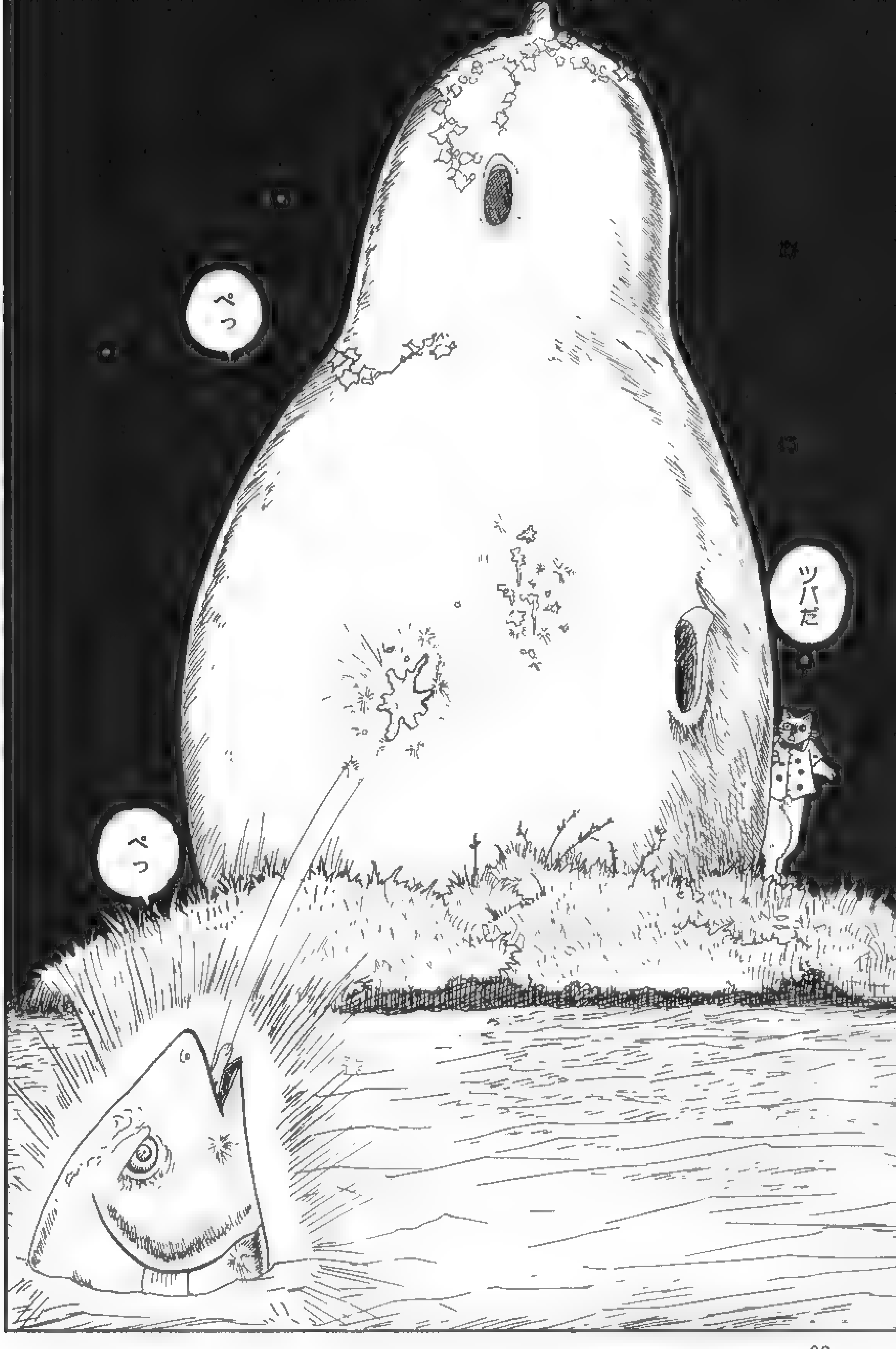
欠食からのがれるためにお駄賃をもらおうとガンバッたが
もういいだろう
やめろへたくそスミレッ
オレたちを殺す気かっ音楽をなめんなよっ
キ
なんだとオ
聞けーーっドラネコども〜〜っ
ゲギィ
うわっダメだっ逃げろっ
ドブッ
ほほ
沼に逃げるし
失神するし
おーおそれでも
ゲエ
ワシのバイオリンのむせび泣きは止まらない
キロッ
?
!?


金色の魚ちゃーーん出て来なさーい
ゲェゴウ
ヘタクソーッ
沼がくさるぜーっ
ゴーーッ
その腹にーっ ワシの歯形をつけるのよーっ
キッ
ふう
弦も みんな切ったというのに魚ちゃん…
ウンともスンともないのう
そーれ それっ それっ
ゲゲッ
キーーッ
ゴォーッ
ゲウーーク
キーーッ


唐あげ君のよーな細かい旋律でねえとダメなのかい
あの魚相当 音楽好きですから爆音ではダメでしょう
爆音!!
ゴォッ
グォー!!
グォーッ
あいつのいびきここまで響いてくるぞ
グーー!!
昼も騒音 夜も騒音
しかしドラネコ団はどうして博士を応援したんでしょう
お駄賃もらうとかなんとか言ってたなあ



あれっ この匂い…
ああっ 喘息の薬の匂いだ
うっ
そうかっ 匂いの場所がわかったぞっ
わかった⁉
ん
あれっ あそこにいるのは薬屋の親父だ
すおーっと
あっ
この匂い…


ツバだ
ぺっ
ぺっ

第五話　ギンボン




ザーーッ
ゴッ
おっ
ドラネコ団の諸君
ちわーっ
ヤンペ薬局の親父だな



スミレ博士のひどい音によくガマンしてくれた
苦しかったぜ
君たちのウソ声援のせいであきっぽい博士がダラダラ弾いたため
金色の魚がすごく怒ってタップリとツバをはいてくれた
さあ約束のお駄賃だ
わおう こんなにいいのかよっ
またそのうち頼むぜ
ニャッ
ふっ
しかし あの魚スミレ・ヒヂヨシのひどい音がわかるんだから凄い奴だよなあ
うん
くーっ
くーっ
ザーーッ
食ってやる〜〜っ
ペン
ペン



金色の魚はオレのもの〜っ
ここが金色の魚がいるという蛇腹沼か
あーーっワクワクしますねえ
ムッシャリムッシャリ生食いよォ
金色の魚はオレの腹にいっ
先生っさっきからとんでもない事を唄っている奴がいますねえ
ふり向くんじゃないよっ奴がヒデヨシだ
ヒデヨシって…あっ
「アタゴオルの歩き方」に書いてあった要注意猫
ニャーンあんたたち
金色の魚食いに来たんでしょうわかるわよーっ


食うなんて
とんでもない
あれは研究すべき魚なのだ
研究すんなら腹で味わうのが一番なのよーっ
も〜〜っ おまえのような奴がいるから絶滅種が増えるんだっ
コレコレ そんなことを…
あんたたち金色の魚を見たいんだろう でも アイツ利口だからね
なかなか姿見せないよ
しか〜〜しっ オレについてくれば見れるぞお
ホントか
えっ ネズミ札で負けた?
そうですっ ヒデヨシ君のインチキにやられて それで演奏しに行くんです



トンガラシ岩のところで
トンガラシ岩……なるほど アイツ考えたな
あの岩は沼の入りくんだ所にあるんだぜ
ここでやれば…
あっ そうか…
考えた?
ああ いいかい
唐あげ丸さんの演奏で金色の魚をおびきよせるつもりなのか
もーーっ 悪知恵だけは凄いなあ
ザーーッ
イエーーッ 唐あげちゃん よーろーしーくーっ


ザー
雨の中のバイオリンって なかなかですねえ
ウーム この森には こんなに上手い者が いるのか
ヒデヨシ君
舟になにか 積んでますね
まあ ろくな もんじゃないな


ザパーッ
おわっ
出たっ
凄いっ なんて 美しい…
ああっ 素晴らしい
これは古代の書に記されている「ギンボン」じゃないか
「ギンボン」って……「ベセンゲル記」に載っている生物ですか
「光の海に生まれ光在るかぎり滅びなき者」
そうだよっ 君良く知っとるなあ
私はヨネザアド古代生物研究学局のモガモロ博士だが
ひょっとしてアタゴオルのヤニ・パンツ氏とは…お主のことか?


ええっ パンツです
君の論文は実に斬新な視点だ
しかし アタゴオルとは いい所だのう 伝説の生物 ギンボンが 棲むとは
でも 恐ろしい生物も 棲んでいます
恐ろしい 生物?
ひえ―っ
イエ〜〜ッ 時間通りだわ
ヒデヨシの奴 爆弾 しかけて いたんだ 沼への通路を ふさいだぞっ
恐ろしい生物って アイツの ことか!?
そうです メチャクチャな 生命体です


さあさあ金色の魚ちゃーん
も〜〜逃げられないわよーっ
きゃあーならずムシャムシャ食ってやるせえ
でろ
でろ
とおっ
ボウ
やめろっ貴様っその魚はこの星の宝だぞ
宝はみんなオレのものーっ
おっほっほっ
水爆弾だっ
あいつ金色の魚を吹っ飛ばす気だ
やめろっそんなデカイのっ
くらえっ

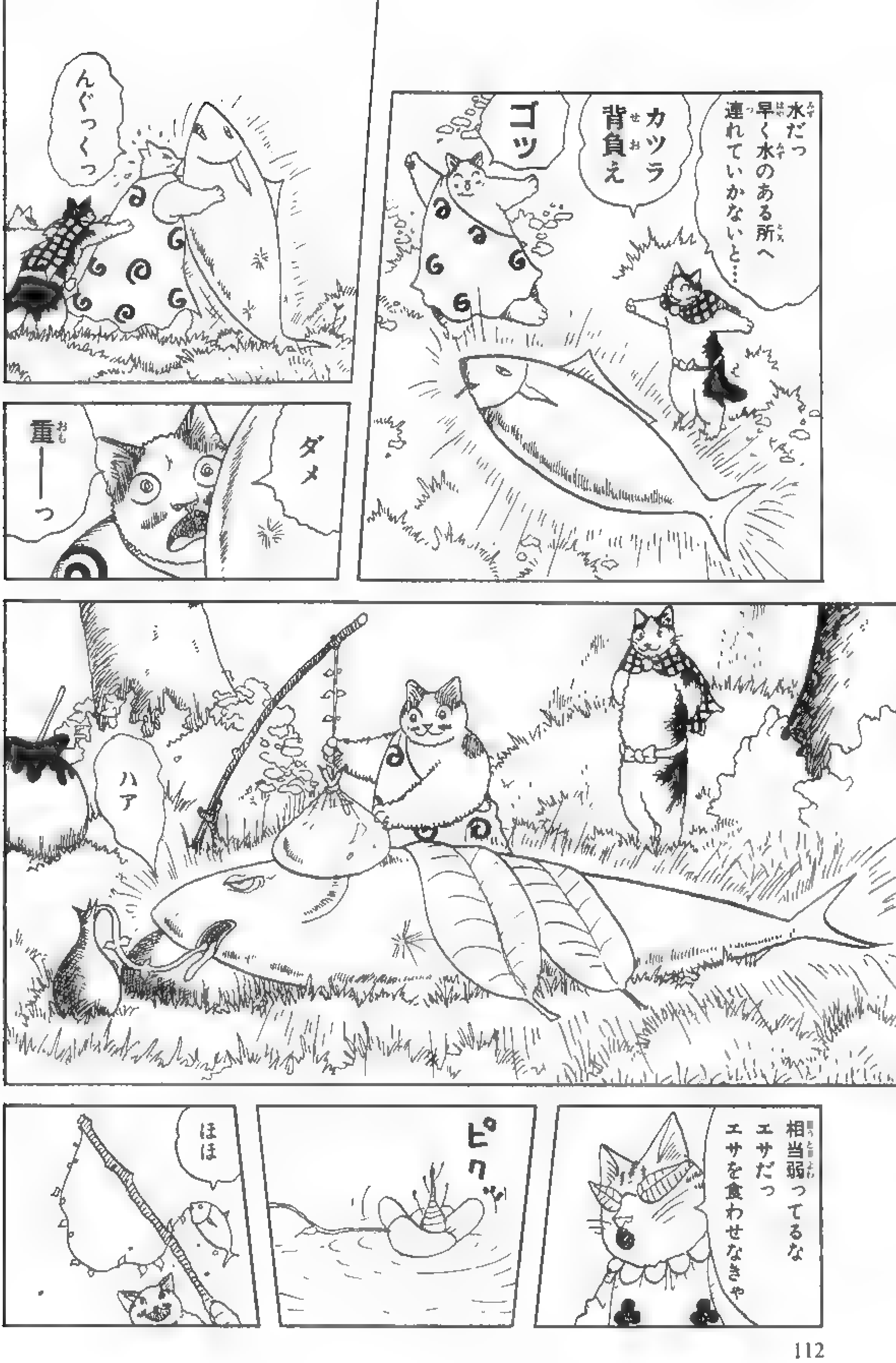

ボッ
うわっ
らっ
森の中に落ちたぞ
大変だっ捜せっ
見つけたらオレによこすのよー
4日後
ガサ
ガサ
くっそーーっ どこへ行ったんだあ



(注)尾っぽ…アタゴオルの長さの単位。1尾っぽは約1メートル



ゴ
ハア ハア
凄い まだ生きてるぜ
ずいぶん弱ってますぜ
やりましたね 親分…オレたちで 食ってしまいましょう
うーっ
よーし… 食うか
ダメ
助ける
えっ
助けるったって もう死にそうなんだぞ
カツラ 言い出したら 聞かないからな


水だっ
早く水のある所へ
連れていかないと……
カツラ
背負え
ゴッ
んぐっくっ
ダメ
重ーーっ
ハア
相当弱ってるな
エサだっ
エサを食わせなきゃ
ピク
ほほ


さかなだよーっ
ドス
ドス
ダメだ
食いつかないぜ
コイツ……光がだんだん減ってきてる
ああっ死んじまうな
カツラ……なんで そんなにムキになってるんだよ
ここ…
あっ
ダメ
助ける
助ける
ビタ
ビタ
この模様
母ちゃんの模様だ


母ちゃん うーっ
ごーっ
くぬぬ
くーっ
ぐーっ
…ゆ… ゆめ… 見たよ
オレも 夢見た… 蛇腹沼に 潜って…
親分 オレもです 沼に潜る夢


どういうことなんだ?
確かこの辺からだよな
そーそーっ
おっ…
夢で見た植物だ
変な型だねえ
チカチカ光ってますね
これもしかしたら…
あの魚のエサじゃないのかな


ダメだな
ザーッ
体の輝きもなくなったし
ごおっ
パチ
パチ
おおっ
やったっ
わおう
復活だっ

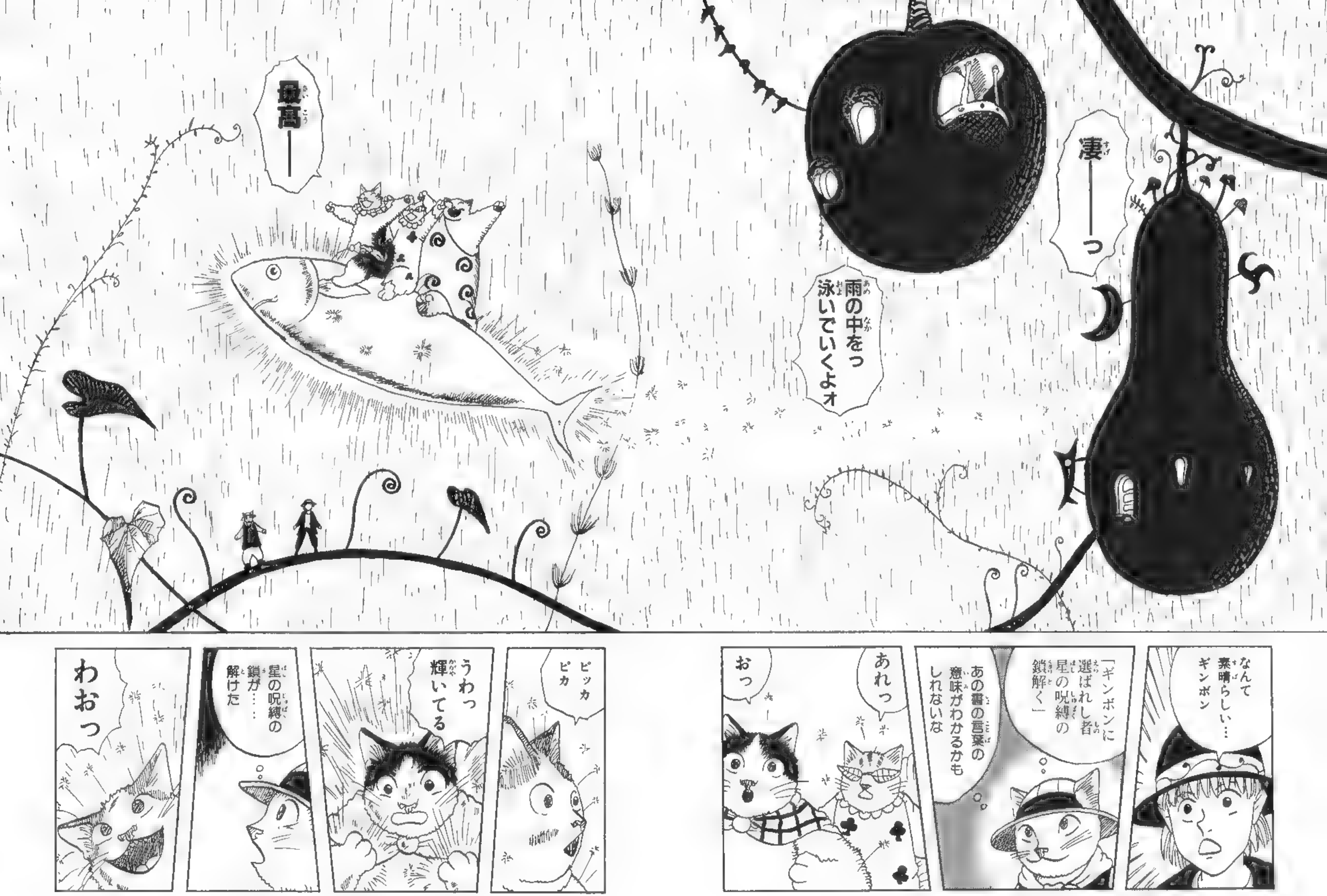

ばんざーーい
バタ
バタ
イエーーッ
ドラ猫団
なにがめでたいのよーっ
あっ
ヒデヨシ
キャーーーッ
金色の魚ちゃん
生きていたのねえ
オレたちが
助けたんだっ
いやーっ
ご苦労
それじゃ
お駄賃
ホレ
うわっ
眠り花粉
ごあっ

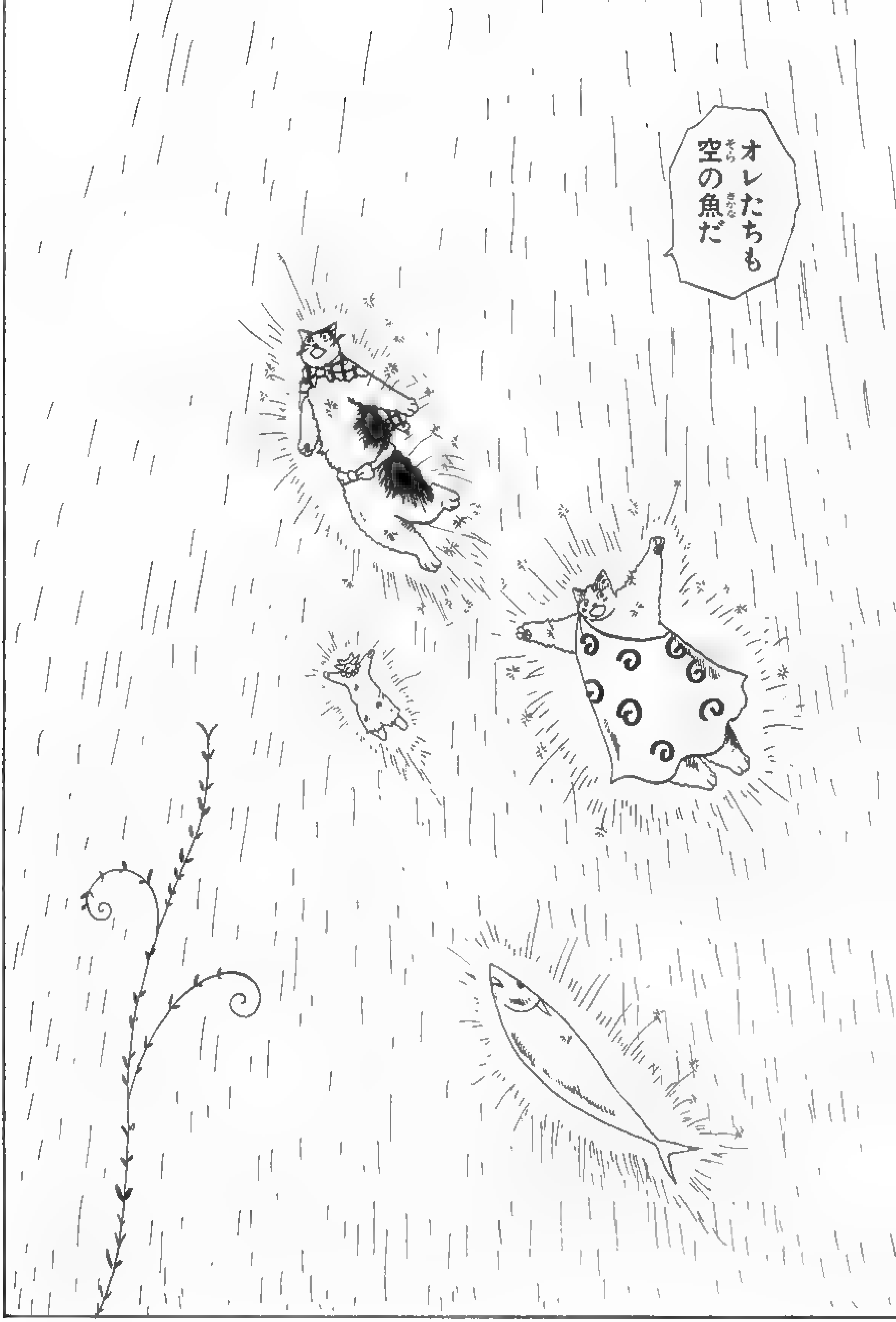


やめろ……
食う…な……
ごーーっ
うえっへっへっ
プル
プル
ついに この日が来たのよォ
うれしくてヨダレも泣いてるぜ
ではいたーだきます
痛でっ
ゴッ
バフッ
ら



ドッ
ギエッ
ザーッ
起きろ コノヤロ よくもあの魚食ったな
ポン
ポ
……
ん…んが？
うう 腹痛え
食ってねーよっ アイツ オレの腹につきささったのよォ
あれっ
ごっ
くっそーっ あんな デカイの 一匹食ったら 腹痛くなるの 当たり前だろっ
デタラメ言うな よくも食ったなあ
らっ
ごほほっ


凄ーっ
雨の中をっ泳いでいくよォ
最高ーー
なんて素晴らしい…ギンボン
「ギンボンに選ばれし者星の呪縛の鎖解く」
あの書の言葉の意味がわかるかもしれないな
あれっ
おっ
ピッカピカ
うわっ輝いてる
星の呪縛の鎖が……解けた
わおっ


オレたちも空(そら)の魚(さかな)だ

第六話　モスモスッ葉




最近の鷹あげ丸さんの演奏……
一段と凄味がましたな


キエッ
ミーン
ミィーー!!ッ
わおう
すばらしい
最高
これにて「夏の午後の調べ」はおしまいです
唐あげ丸さん握手して下さい
やっ どーも
あれ
どうしたんだい ヒデ丸


親方の演奏している
そばにコレが
これは伝々花の一種だな
伝々花って
茎を通して音を伝えるやつか
どうかしたのですか
伝々花ですよ
あっ
ミン
ミン
これはこれはわざわざおいでいただき……
ずいぶん長い茎だねぇ
どこまで続いているんだ
貴方はいったい？
私こういう者です


「ソウベッタ森……モスモスッ葉工房親方ジョポオ」
モスモスッ葉……？
それはですね
これなんです
いいですか
クル
クル
！
あっ これは!?
私がさっき演奏した曲だ


モスモスッ葉は
音を記録して
再生するのです
すんごいですねぇ
ああっ なんて
すばらしい
演奏なんだ…
私が私に
感動する…
あっ
ミィーン ミンミンミッ
セミの野郎
野外録音では
どうしても雑音が
入ってしまいます
そこで
御相談なのですが
我が森
ソウベッタに
お越しいただき
完璧な録音を
録りたいのですが…
いいですよっ
喜んでやりましょう
数日後
ソウベッタ
それっソウベッタ



らーららん
ポン
ポン
セミよりうるさい奴がついてきたな
セミの方がマシです
ねえねえソウベッタって遠いの？
けっこう遠いみたいです
でもこの火山爆風草で作られた船は力がありますから…
3日後
まーだ？まだ着かないのォ〜〜
うるさいなあ地図だと……ホラあそこ
いえ〜〜っ着いたあ


すばらしい
あちらこちらから
重厚な弦楽が
流れているっ
おおっ
この曲は
ガンブラ島の
ドウリンス氏が
作った組曲
でもっ
どうやって
こんなに生演奏が
あんちゃん…
モスモスッ葉
だよ
店の中から
流れてんのさ


ああっ
なんて美しい森だっ
弦楽だらけっ
あれっ
んっ
あっ
親方これはっ
ああ 私の曲っ
昨年の秋に私が
演奏した「ペンポン月夜」だ
ええっ
どういう
ことだ!?
こらーっ
ヒデヨシッ
ウドン代
払えーっ


らっ
ウドン屋の親父の声だっ
どうかしましたか？
モスモスッ葉を流しているんですか？
モスモスッ葉
誰かが録音したのかっ
あれっ
あっちの家から流れ出したのは…昨年の春…私が演奏した「満月ダラリ尻尾」ですっ
私が演奏したって…貴方はひょっとして唐あげ丸さんですか
いかにもワタクシ
「ハサミ夜・コミ夜唐あげ丸」です
すばらしい
ああ…唐様っ
はっ
貴方ほど見事な腕の名手はおりません


みんなあっ 大変だあ 唐様だぞォ
えっ 唐様っ
唐あげ丸様だとォ
おおっ あの方がっ
さすがにスルドイ 目つきだな
それでこの森に なんの御用で？
録音です
録音部屋で 録るのです
おおっ それは すばらしい
唐様の 野外録音盤は 実にすごいのばかり なのですが…
セミの音や カエルの声が 入ったり…… それより
ヒデヨシとかいう 奴の歌声や 追われる声が 入ってしまって
イエ〜〜〜ッ オレよっ オレが ヒデヨシなのよっ
か〜〜〜っ おまえが あのヒデヨシ なのか!!
せっかくの 名演奏を キズモノにして ……さっぱり わかってないなあ
わかるわけ ねーべよ


ところで このモスモスッ葉は どこで手に入れたのですか
音葉屋だよ ここの先にある
「所在不明のナゾの天才 唐あげ丸」
ずいぶん あるなあ
おっ これは 一昨年の 夏の…
よう 親父さん
どうして 唐あげ丸さんのは 青色葉っぱ なんだい？
そりゃあ 海賊盤 だからさ
海賊盤!?
ああっ 演奏者に無断で 隠し録りしたやつさ


本当は演奏者に払われるお金もみーんな横取りしてしまうのさ
ひっどい話だねえ
これもモスモスッ葉工房が作ったのですか
いーや あそこはまっとうな録音葉製作工房だよ
海賊盤はヤミの商売 だから どこで作ってんのか ワシラもよく知らんのさ
だがある晩ここに来た男は……自分が唐あげ丸氏の演奏を録音して来たから買ってくれと原盤を出したんだ
原盤を持ちこまれてもどうしようもないから帰ってもらったが……そいつが海賊盤屋に原盤を売ったのだろう
その男の特徴は!?
でっぷりふとってニッタラ笑って丸眼鏡に白ヒゲ
…確か…スミレとか
ヒデヨシちょっと来なさいっ


ほほほ
ほほほじゃないよっ まったく
どーせ この辺に隠してんでしょ
これですか
あーーっ
そう コイツです
時々金まわりが良くなると思ったら…こんなことしていたのか
学問研究にはお金がかかるのじゃ
無断で演奏を流されて…唐あげ丸さんもさぞやめいわくでしょう
いいえっ 流れた曲はみんな完璧ですっ どこにも失敗はありませんっ
さすが ワシの友 唐あげ君じゃ


ところで おまえ どうやって 唐あげ丸さんの 演奏を録音 したんだ?
ヒデヨシ君が じゃな 酔っぱらって 舟に乗っているうち この森に着いたのよ
そこで音の出る 葉っぱに感動 してだな… 録音する器械を おみやげに 持ち帰ったとき
なにが おみやげじゃ 盗んだのであろーっ
これ パンツ なんのマネだ
おまえのマネだよ ツケヒゲで 気分転換も いいもんだな
ほほほ 他猫に なるのは楽し
いや〜〜くっ お待ちして おりました 録音部屋も 準備万端っ
私は 完璧
さっそく 始めましょう


すばらしいっ
一発目で完璧です
さすが天才だ
あっ
めずらしい
親方が音を外すなんて…
納得できませんっ
全体的にピシッとしていない
もう一回やります
ピシッと
あ〜〜〜っ
スイマセン
もう一度お願いします


あれっ… どうしたんだ 唐あげ丸さん 震えてるぞ
緊張 してるんだ
キンチョーって なんじゃ?
恥をかくまいと 思う気持ち から始まるのよ
ううっ
プル
プル
ダメです ダメっ
緊張で 頭の中が グルグル してるんだ
こーいう 時こそ スミレの 出番じゃ
我が友 唐あげ君 ここはひとつ 気分転換じゃ
本気でヤルから 録音たのむぞっ
おりゃっ
グギーーッ
ゲゴーーゥ
ホレホレ
こんなに 汚い音色 聞いたことが ない
こんな録音 残して おくんですかっ



消すと もっと
うるさそう
だからゴミ用の
第5番に
入れておけ
さ〜〜っ
いい気分転換に
なったろう
気楽に
行きたまえっ
ブン
ブン
ああ…
みんな私を
笑っている…
どうせ
私は…
ど〜〜せ〜〜〜
きっひい〜〜っ
ハ
ハ
バ
親方
しっかり



これ以上今日の録音はムリだなあ
唐あげ丸さんは感受性が強いから…でも明日になれば慣れますよ
ねえ君このボタンはなにかね?
それは録音盤を選ぶやつだよ
あっそーっ
ドンドンドン
フーン
おいっ借金の返済はいつになったらヤルんだよォ
スイマセンもうすぐお金が入りますから…
いいかもうこれ以上は待てねえからな
お主もずいぶん借金しとるのじゃな
だから唐あげ丸さんを探し出したのですっ すでにもう予約が大量に来てるんです


いつもは音葉屋を通すのだがっ今回は直販するのさ
翌日
おーい唐あげさーん
あれっ
「録音怖い
さようなら」
ええっ逃げた⁉
そんなあ!!
予約はとってあるし発売日はズラせないし
逃げたか
だいじょうぶさ最初に録ったやつで十分すばらしい


確かに…唐あげ丸さんは気に入らなかったみたいだけど
オレたちが聞いてホントに凄いもの
親方が逃げた以上どうしようもありません
それで作って下さい
よろしい 1番目の原盤をきざみ 印刷に回せ
ハイッ
4日後
ウーイーーーン
ガサ
ガサ
いよいよ間もなく発売です
アタゴオルの天才音楽家ハサミ夜・コミ夜 唐あげ丸氏
入魂の室内録音「食らえっ三日月」
ゴゴ


ドオン
発売で——すっ
イエ——ッ
発売じゃ——っ
こんなに まき散らして だいじょうぶ なんですか
気に入った方は お代を払います 唐あげ丸さんの 新曲ですから
ああ


これで借金が返せる
親方
5番目に残してあるスミレ博士のひどい演奏……どうします？
あんなもの消してしまいなさい
しっかしヒドイ音でしたよねえ
チョッと聞いてみましょうか
カチッ
耳がくさるぞ
あれっ
さあっ唐あげ丸さんの新曲だぞっ
早く早くっ聴かせてっ
あーーっわくわくする
この瞬間モスモスッ葉工房は


倒産した
グギーッゲゴーウ
おりゃ
ホレホレ

第七話　2626




グギーッゲゴーッ
ゴヘギーーェ
爆音にして濁音……
最低ですね
すばらしい
すばらしい？
ああっ この音量 そして無神経
これこそワシが探していた音だ
や
えっ
あの演奏がすばらしい？ 唐あげ丸さんに会わせろだと
そーです 唐あげ丸さんのお力が必要なのです


なに考えてるのか知らんがねえっ
アレを演ったのは唐あげ丸氏ではなく
スミレ博士という大タワケ猫だよ
大タワケ…
ああ 関わらない方がイイ ひどい目に遭うぞ
スミレ博士の御署名会です
唐あげ丸さんのこのモスモスッ葉
実はスミレ博士が弾いたのでーす
そーーよォ 書きますじゃーっ
ワシのありがたい名前だよーーっ
誰があいつの署名なんか欲しがるものか
まったく
おーーっ
あなたがスミレ博士ですかっ
そうじゃ ワシじゃ 御署名しますぞーっ


署名はいりません
演奏していただきたいのです
え――――っ
弾きます
断固弾きまくりまするーっ
えっへん
ヒデヨシに弾けとはねえ
ナゾですねえ
ナゾなもんかい
ワシの能力を認めたわけじゃ
ぜひ ぜひ
お聞かせいただきたいのです
よっしゃ
んっ


キェーーーッ
唐あげ君じゃないか
えっ
親方
どーーして逃げたりしたんですかあ
ゆるしてくれヒデ丸ーっ
録音があんなに恐ろしいものだとは知らなかったんだ
親方は繊細だから
緊張しない方法じゃないとね
ところで奇声を上げてたようだが
どうかしたのかね
これです


古くさいバイオリンだのう
なに言ってんですかあ
これはトンガラメルの383ですよ
トンガラ丸?
バイオリン製作の大天才だよ
現存する作品は恐ろしく高価なものらしいぞ……
383がここにあるということは…
この屋敷はバイオリン収集家としても有名なママモル氏の家では?
いかにも私がママモルです
おお
一度お目にかかりたいと思ってましたっ
ところでスミレ博士がなぜここに?


バイオリン弾くのじゃよ
ええっ貴方が!?
どれもこれも風格があるねえ
見ているだけでヨダレが出るのう
プル
プル
ヨダレ?
紅マグロが数千本買えるって聞いたからだろ
マグロに換算しなくてもヨダレ出ますぅ
博士に弾いていただきたいのは
これなんです



んっ
氷に包まれてるぞ
ヒエーーッ
これは伝説のバイオリン
2626!!
伝説のバイオリン？


ええ
トンガラメル氏が製作したといわれている幻のバイオリン
誰ひとり見たものはいないが 古来より
いろんな名手が弾いたという…
えっ… それってどういうことですか?
夢に現れ
夢の中で弾くのです…
夢に現れ…
ええ バイオリンの名手の夢にだけこの楽器は現れるのです
私も今まで3度見ました
ワシなんか100回は見とるぞ
タコの夢か
それにしてもどうやってこれを手に入れたのですか?
我が一族は昔からバイオリンを集めていましてな


水晶鉱山の洞窟で発見したといわれています
水晶鉱山…でもどうしてこんなに氷が!?
この氷はっ
すばらしい氷だあ
ら
美茶さんっどうしてここに?
誰だ おまえたちはっ このすばらしい氷は絶対かき氷にしてやるからなあ
こら 美茶 なに酔っぱらっているのだっ
ワシだっ ホラホラ スミレ博士だよォ
そんな フサケタ顔は知りませ――ん
ガッ
ガッ
行くぞ氷っ


くーっ どうしてこんなに硬いんだあ
おい ヤメロ そんなことをすると
ぐわっ
あっ
なんだっ
にゃあ
にゃんじゃ これはあ
2626にとりついたグラグラだよ


グラグラ!?
トンガラメル氏のバイオリンが突出して見事な音色を出すわけは
バケモノに魂を売り渡したためといわれている…
そのバケモノがこれか
ええっ楽器にこれがとりついてしまってから氷がドンドンふくらんで来たのですっ
だがどうやらトンガラメル氏はこうなることを予測していたらしく……
対抗する楽器を作っていたんだが
それが これだ
ほう…水晶製ですねぇ


く…重っ…
持てません
あれっ
音も出ませんねえ
それっ技術のある者が弾いても音が出ないのです
ど下手じゃないと
ど下手
行くぞバケモノ
ゲエーー


なんて
ヒドイ音だっ
あっ
ギヒ
グ
バケモノが
怒ってるっ
バケモノじゃなくても
こんな音聞かされちゃ
たまらんなあ
ケゴ
美音だわぁ
ゲベエゴエッ
ホーしホし
パキ
パキ
ビッ
ぐわっ
しひしひしひっ


美茶がやられた光線だ
くっそおっ こんなシビレ波でビビるオレ様じゃないわよ〜〜っ
ゲエ
くらえっ
ゴ
くぬぬ 悪臭が音になってるようだっ
このこ汚い音色が美しい音楽好きのググラには効くのです
シュッ
ギギッ
ぐえっ
あっ ググラが名器2626から離れたぞっ
わーーっ


おのれっ
オレがこんなので
参ると思うなよっ
ゲエー
あれえ
ヒデヨシ
やけにヤル気が
あるねえ
グラグラ倒したら
紅マグロ食い放題と
話をつけてるらしいぞ
どうりで…
くらえ
グ
らっ
パキィン
あっ
水晶製の弦を
切ったっ
なんて
馬鹿力
なんだっ
あっ 中弦も
切ったっ
こらあ
あと1本しか
弦はないぞっ
今だっ
普通の音階
弾いてみろっ



やってるのよーっ ホラ
普通の音階だろっ
ギヒーーケエ
べーにーっ・まーっ
ぐーっ・ろーーっ
くーっ・いーっ・てーっ
まーぐーろ
くーいーてー
ゲッ
どこが普通だよ
音感めちゃくちゃ悪いなあ
ヒデヨシ君
いいですか
こうですよ
ゴッ
にゃ!
べーっにーっ
おっ たどたどしくも
いやしさで必死に…
そーです
その調子
べーっ
にーっ
まーっ
ブル
ブルー


シュ～ーッ
ら
凄いっ
バイオリンの中に吸い込まれていく
ほっ
スポ
ドスッ
らっ 穴が消えたっ
アイツ 閉じ込められたぞっ
やったっ やったあっ
おほほほほ 紅まぐろーっ
しかし どうして急に グラグラは あの中に？
悪臭の音を さんざん聞かされたので
普通の音階が とても美しく 感じたのさ



あれえっ ヒデヨシ
そこでなに してんだあ?
おっ美茶 気がついたなあ
コン
ほほっ
簡単に 割れるぞ
この森を通ったら とても新鮮な 氷の匂いがしてな
こんな氷は なんとしても かき氷に したいと 思ったのさっ
サッコサッ
さーーっ めし上がれっ
いかが かね?



変な味です
砂っぽいような
……
マズイですよ
これっ
砂っぽくて
マズイのかあ…
うんめ〜〜わ
よ――っ
このジャリジャリ
した感じが
いい感じ――っ
!?!?!?
おまえが
うまいっつーのなら
売りものには
ならないなあ
砂とも違う……
なんだろう　この口当たり
らっ
寒っ
3日後
えーっただいまより
始めますっ


…あーっうめえ
なんだコイツ カツラかぶって かき氷食ってるだけじゃないかっ
コラッ 氷食ってるの見に来たんじゃないぞっ
ザワ
ザワ
うっ
寒っ
寒いっ 寒いのよ〜っ
なんて暖かそうなバイオリン
ピッ
おおっ


凄いっ
めちゃくちゃ上手いっ


これっ どこかで 聞いたこと あるような…!?
ああ確かに
これは 153年前に 亡くなった名手 アイラムス氏の 演奏ですよ 曲は「銀河舟」
そうかっ
でも旋律が アチコチ ちがっていて…… これもなかなか 新鮮ですね
夢です…… アイラムス氏が 夢の中で弾いた せいです
不思議な気分だなあ
ヒデヨシの音に 感動するなんて……
無意識の旋律…… なんと自由なことか……
夢だ夢


もっと深い
夢を見なくては

第八話　黄まだら水晶





なんて書いてあるんだ…？
「黄まだら水晶探した者には報奨金たんまり」
たんまりとなっ
よーーしっ見つけてやんぞお
で その報奨金はどこに埋まっているんだ？
なに言ってんだよ おまえ
探すのは黄まだら水晶だろ
そー そーそのまだらちゃん
ねーっ ちょっとォ
黄まだら水晶ってどこにあるのよォ

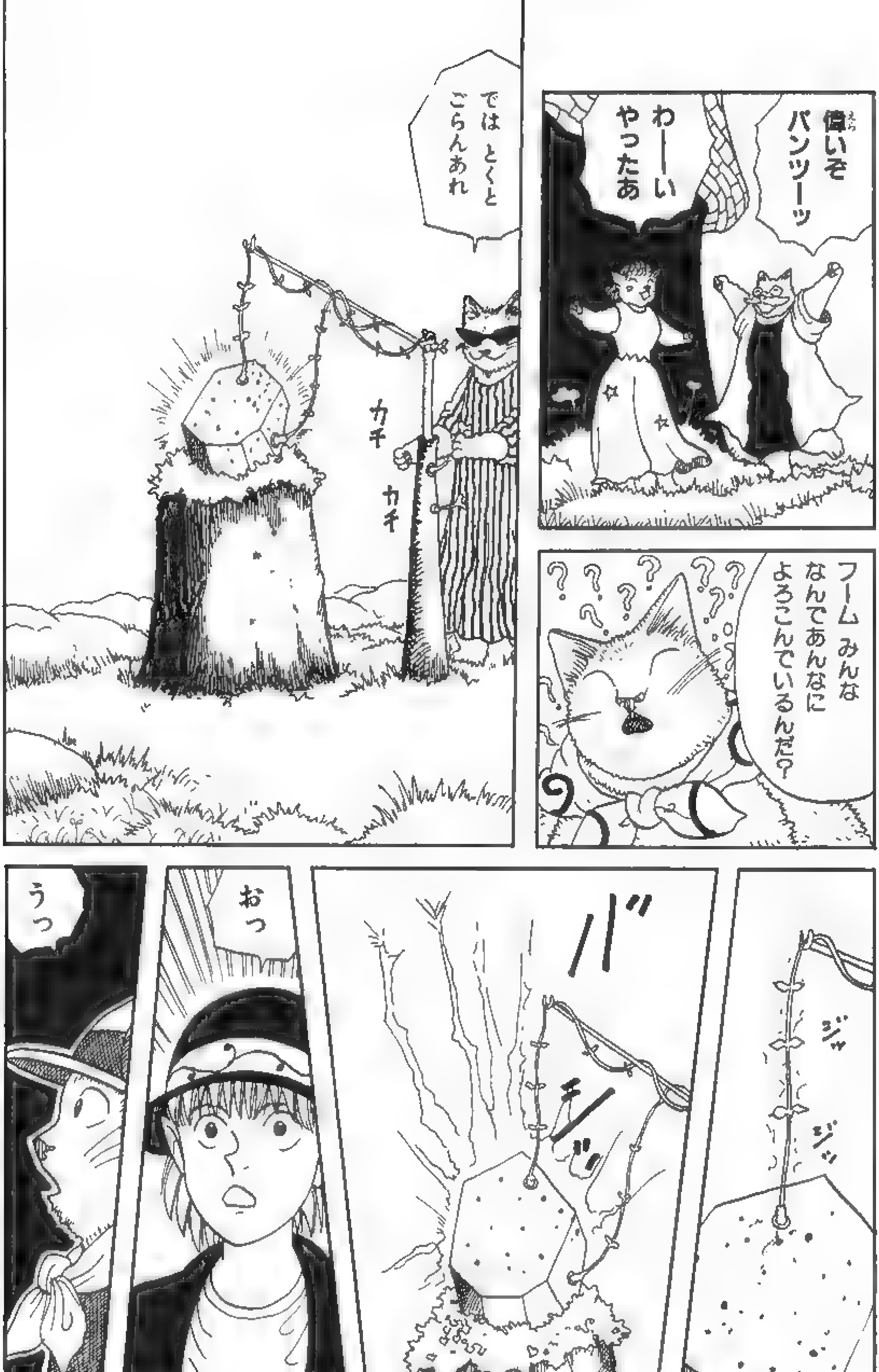


昔は いっぱい取れたんだが…
ホラ あのとんがっている山 あそこに鉱脈があるんだよ
翌日
水晶ばっかりでわけが判らんのよーっ
黄色のまだらなんてどこにもないですねえ
なんかあるような気がするよ
テマリの勘は占いといっしょでハズレるからなあ
あれっ

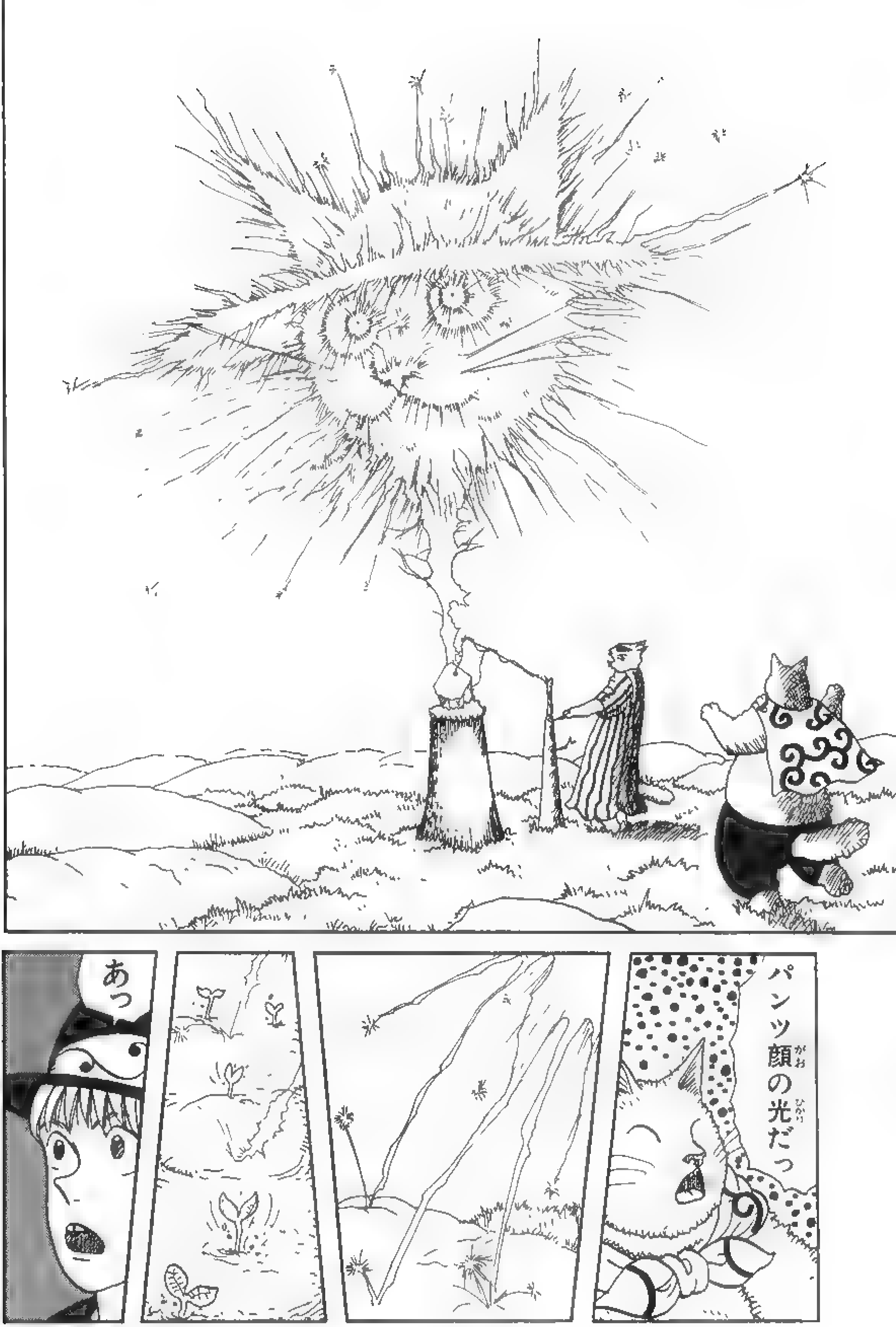

パンツ
なにやってんだ?
黄まだら水晶釣り
えっ水晶が釣れるんですかっ
じゅる
魚かっ 黄まだらって魚だったのくああっ
古い鉱物誌の中にこの鉱物をスズメリ石の針で釣ったという記録があるんだよ
スズメリ石
ああ この石は黄まだら水晶に反応するんだよ

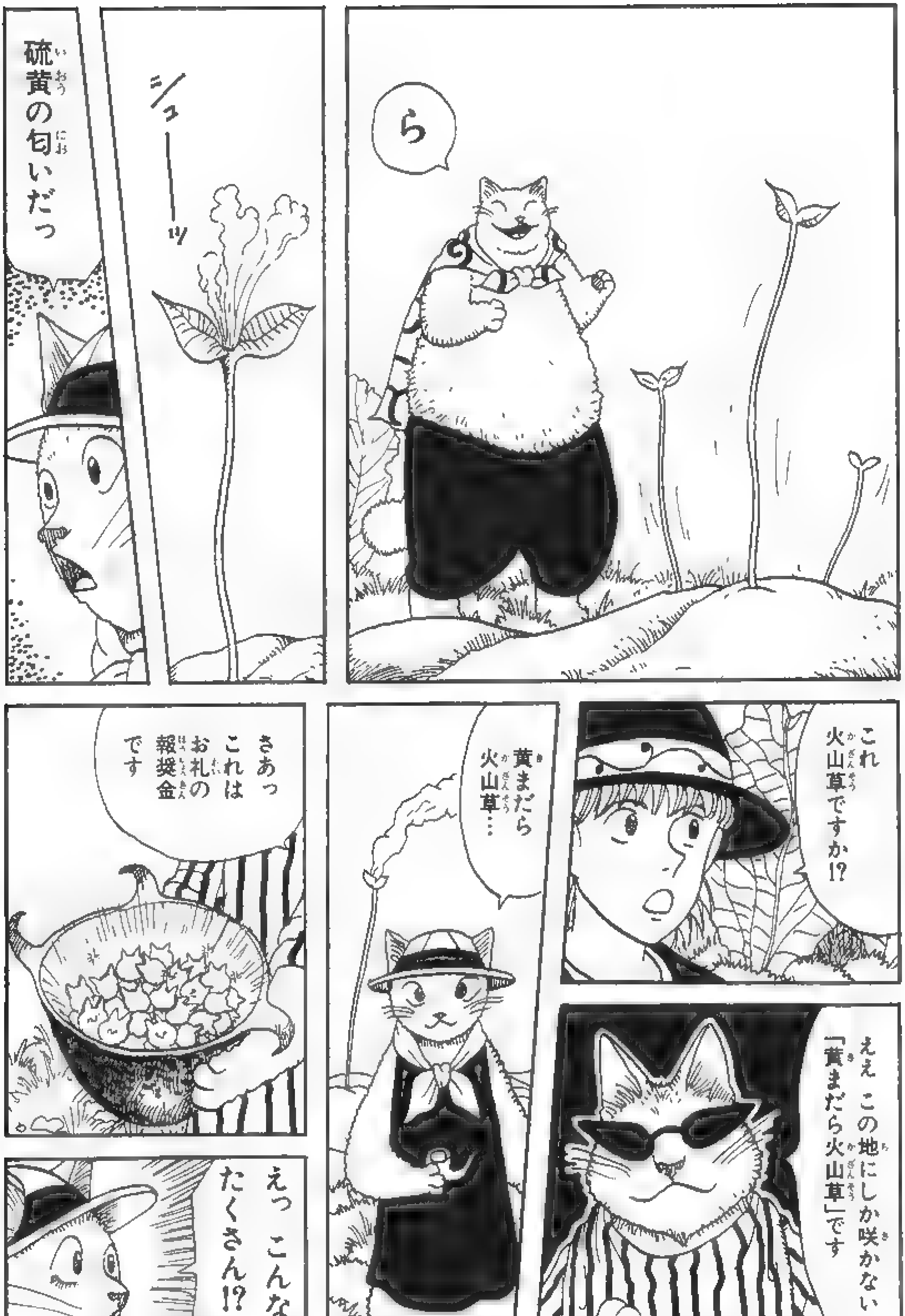

あれっ
ん
おっ
来たぞっ
わおう
あったぞっ


パチッ
わっ
バチッ
パンツ君だいじょうぶ!?
ああ…
一瞬ビリッときた
ヒデ丸さわるとビリッとくるぞっ
別になんともないですよ
ん?
変な鉱物だねえ
翌日
ウーーッ
ウーーッ
アタゴオルのパンツ氏が黄まだら水晶を発見しました



偉いぞ パンツーッ
わーーい やったあ
では とくと ごらんあれ
カチ
カチ
フーム みんな なんであんなに よろこんでいるんだ?
バ
チーン
ジャ
ジャッ
おっ
うっ


パンツ顔の光だっ
あっ


ら
シュ――ッ
硫黄の匂いだっ
これ火山草ですか!?
黄まだら火山草…
ええ この地にしか咲かない「黄まだら火山草」です
さあっ これはお礼の報奨金です
えっ こんなにたくさん!?


よ〜〜〜し
オレは
も〜〜〜っと
デッカイの
見つけるわよォ
パンツ
釣りざお
借りるぜ
ドス
いいけど……
アイツに
釣りなんて
できるかなあ
釣りは
ガマンくらべ
だからねえ
みなさんに1本ずつ
火山草をさしあげます
おっ
ありがと
3日後
黄まだら火山草
ついに発売ですっ
1鉢10銀貨
だよ〜〜〜っ


1鉢10銀貨とは
ずいぶん高いねえ
ああ
でも凄いたくさん
売れているよ
なんなの
でしょう
あの
火山草
この土地の
植物学者が
品種改良を
重ねて作り
出したもの
らしいぞ
わあ
凄い
ポーン
ポーーン
唐あげ丸さんの分も
1株もらって来て
植えてありますよ
ホント
ですか
んっ
メキ
あっ

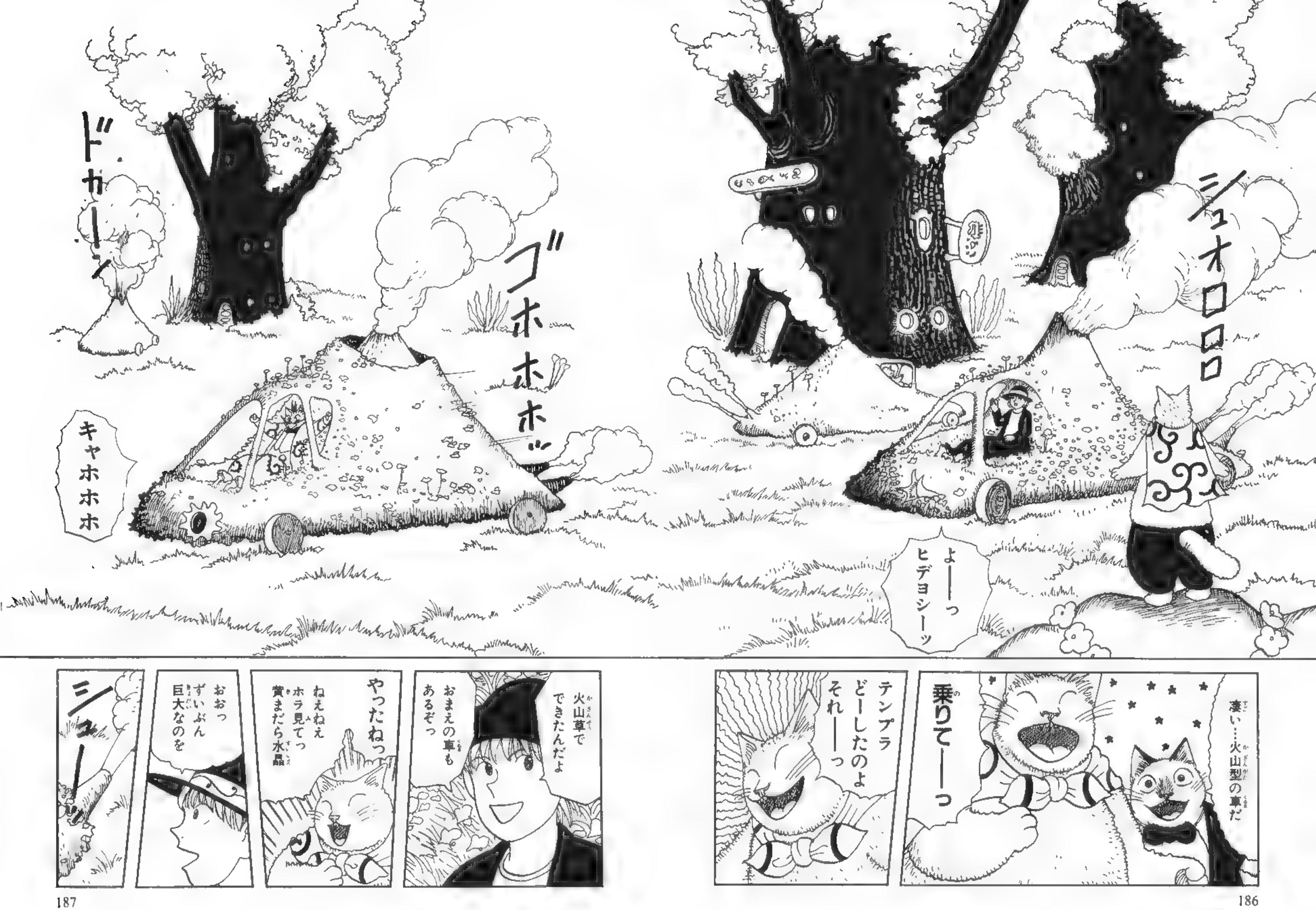


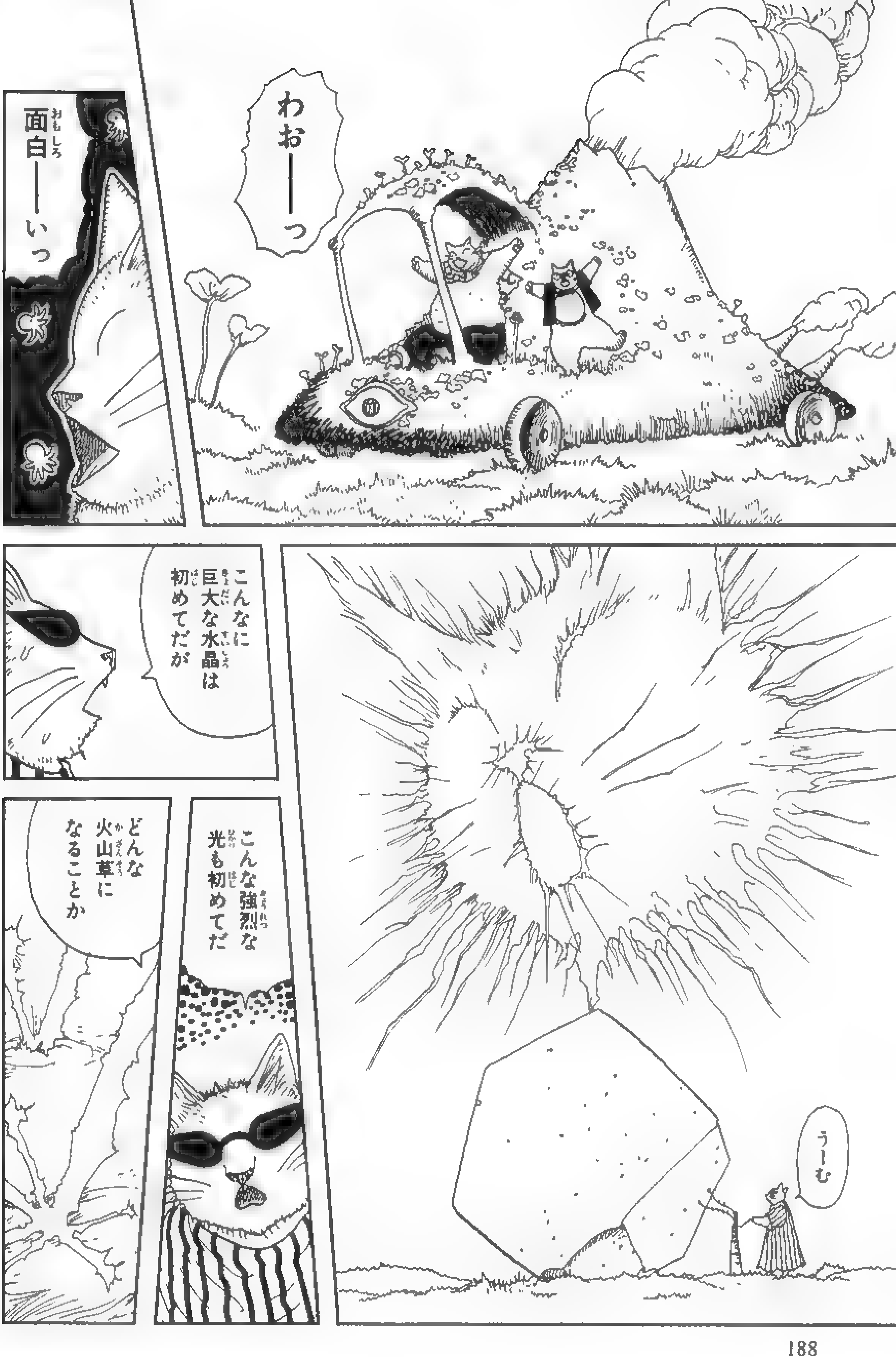
おっ
シューーッ
なんだ この火山草はっ 地面ごと隆起し始めたぞ
根毛が凄いいきおいで繁殖しているんだ
シュー
こりゃあ あぶないっ
離れましょう


しかし ずいぶん激しい活動だなあ
ああ 噴火好きのヒデヨシが見たらキャアキャア言うな
あいつホントに釣りなんかしてるのかな
そろそろ始まるさ
始まる?
ズゴーン
ああっ
ホラね
爆烈玉で吹っ飛ばしてるんだ
あの山ボロボロになるなあ
ゲホゲホ


ヒデヨシ君
爆発させたからと
いって 見つかる
ものではありません
地道に
釣り糸を
たれましょう
いーや
ヒデ丸
ドカンドカン
ぶっ飛ばせば
石が怖がって
出てくるのよ
ホレッ
早く見つけないと
この山 瓦礫に
なるなあ
ぐっ
あっ
カラ カラ
来たっ
イエ〜〜〜ッ


やったぞ——っ
ゴ
ロ
ほっほっほっほっ
ゴ
ロ
ロ
ロ
これはこれは
どえらく
でかいのを
見つけた
もんだなあ
大漁だぜい
報奨金
たんまりだわ
らっ
あれっ
なんだ
ありゃ


シュオロロロ
よーーっ ヒデヨシーッ
ゴホホホッ
キャホホホ
ドガーン
凄い…火山型の車だ
乗りてーーっ
テンプラ どーしたのよ それーーっ
火山草でできたんだよ
おまえの車もあるぞっ
やったねっ
ねえねえ ホラ見てっ 黄まだら水晶
おおっ ずいぶん巨大なのを
シュー


わおーーっ
面白ーーいっ
うーむ
こんなに巨大な水晶は初めてだが
こんな強烈な光も初めてだ
どんな火山草になることか


さあさあ
ヒデヨシ型火山草の
発売だよ——っ
3日後
う〜〜むっ
ヒデヨシ型
んーっ
大きいのは
いいけれど…
ズブブ
だめだっ
重すぎて
動かないぞ
こりゃあ
欠陥車
だなあ
欠陥車!?

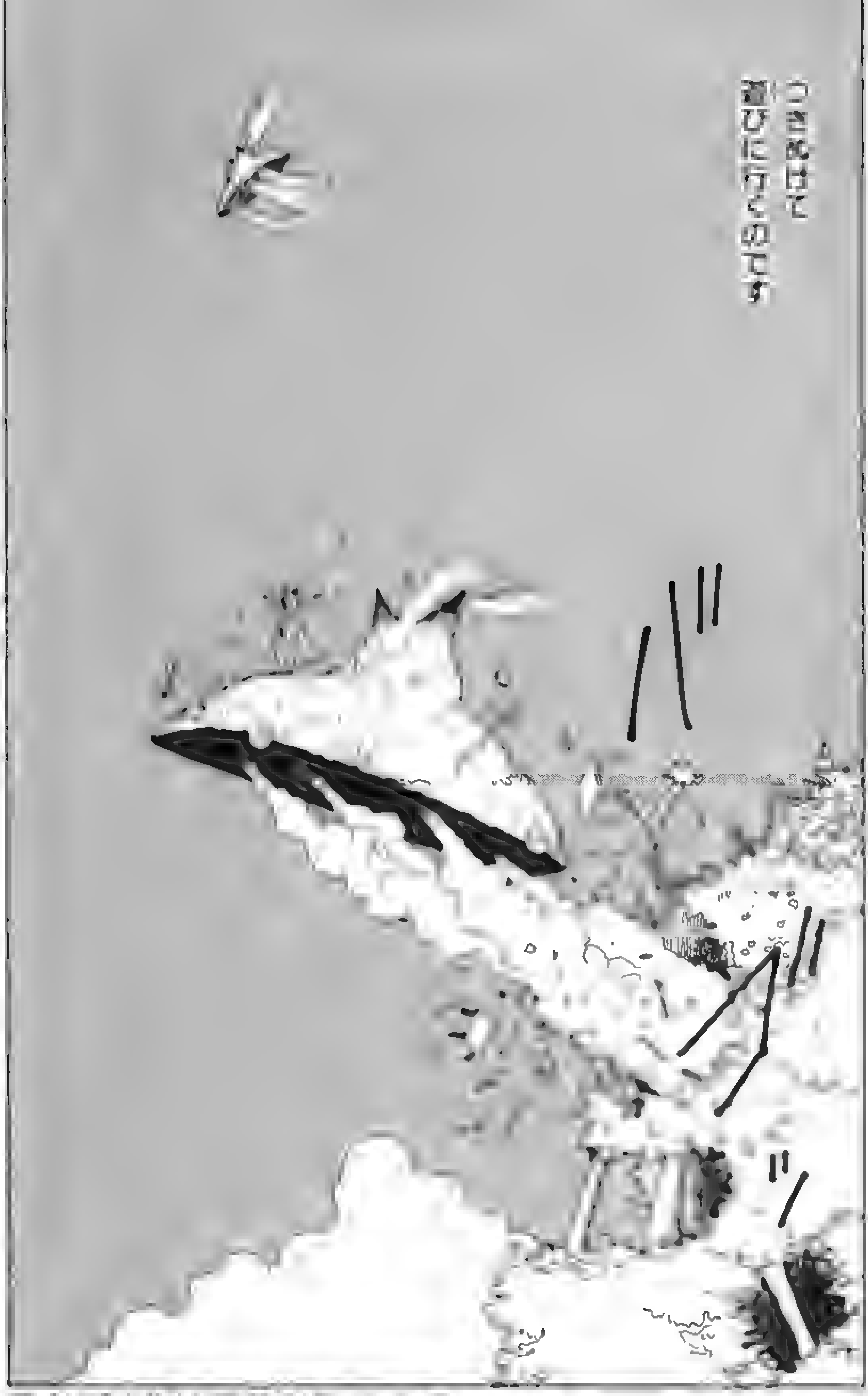

だって
ムダに大きすぎて
重いんだよっ
ヒデヨシがおデブさんだから
車もおデブさんなのねえ
やせないと
走れませんねえ
なんだと
テマリ
このやろっ
うーむ
ヒデ丸
なにしてるん
だい？
ヒデヨシ君の
好きなお酒を
かけてみたの
です
トク
トク
ブゴッ
あっ
ゴゴ


わおう
あっ
下から噴火してるぞ
キャホーー
浮いたのよォ
凄いっ
飛んでますよっ


しかし酒かけると浮かぶなんて変な車だねえ
あれ
なんとなく乗ってると いつの間にか図書館に来てしまう…
私もそうなんです 無性に本が読みたくなるのです
パンツ型の車は パンツ君の感覚が浸透しているのだそうです



たしかに判らないことはどうしても調べたくなるもんなあ
乗れば乗るほどお利口さんになるのです
パンツ型……いい車だねえ
そしてヒデヨシ型は
あ〜〜あ…仕事なんか行きたくないよォ
ズゴゴゴ
うおーーっ
ああっいい気分だっ
体中に力が湧いてくる
おうオレはなんでもできる
働いてやるっどんどん働いてやるっ
そうして仕事場を
やってやるやってやるぞお



アタゴオルは猫の森⑤ おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報はホームページ

「ごろなお通信」

をご覧ください。

イベントや新刊の情報、日頃の創作活動など

楽しみいっぱいです。

http://www.tiara.cc/~goronao/



アタゴオル余波9

ますむら・ひろし

東京・谷中の猫町ギャラリーで、アタゴオルのトリビュート原画展をやってもらったのだが、そこにはポスターも十数点展示した。米沢市から依頼されて描いたものや、日産や保険会社用など並ぶ中で、ど迫力を放っているのが、僕が一番最初に描いたポスターだった。それは野田に引っ越してきた二十一歳の時、初めてギャラをもらって描いた劇団用のポスター。愛宕駅近くの柳沢にあったアパートの部屋で、毎日コツコツと描いた『鼠小僧次郎吉』というものなのだが、これが原画展の部屋にゴッホ的アタゴオルの絵に混じって展示されてみると、なんとも違和感を放っているのだった。

違和感の正体は、絵の後ろに潜む意識の差によるものだ。ゴッホ・シリーズはここ二年の間に描いたもので、それらは近年の僕の意識を漂わせ、なんとも平和なものだ。しかし七四年の五月に描かれたポスターは、その平和な気持ちに向かって、妖気のような、カミソリを噛んだような、どこか気味の悪い気迫を撒いているのだ。あれこそ、あの時の僕の意識、なにひとつ形になっていない、一冊の本にもなっていない、「コレカラ、ヤッテヤルゼ」と唸っているガリガリに痩せた若い野良猫そのものの声なのだ。丁度三十年の歳月を隔てて、ひとりの人間の二つの声が展示されている。そして見事に、合わない。それは同じ人物でありながら、三十年の意識の違いが印されているからにほかならない。あまりに強烈な白黒ポスター、それらは平和なゴッホ・シリーズを叱咤しているようで、僕はこの白黒ポスターを二階の部屋へ移動してもらった。

そうして二階に上げたポスターの前で一息ついたとき、画面のなかに描かれていた『アタゴオル』のスペルを見て、不思議な安堵を覚えた。そこには僕が一番最初に考えたスペルが、こう並んでいた。

ATAGOAL。これが何故、安堵を覚えたかと言えば、僕は数年前から時々このスペルにしようと思っていたからだ。現在のスペルはATAGOUL。二十年以上前のこと、朝日

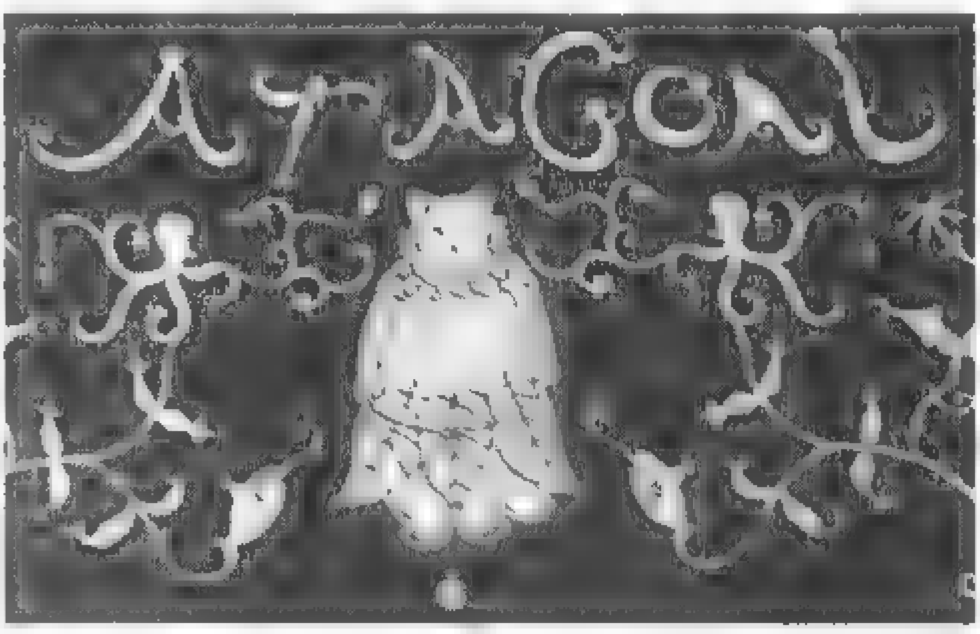
ソノラマの単行本を羽良多平吉氏に依頼した時、「スペルどうなってるんだい」と問われて、「アタゴオルという読み方からすれば、ゴールでなくゴオルなら、こっちの方が正しい」などとなり、GOALではなくGOULに変わったという流れがある。僕自身『アタゴール』ではなく『アタゴオル』でありたかった。この「ゴール」の「ー」には、スピード感があり、僕の意識のなかで、スピードというものはアタゴオル界において、嫌悪の対象でもあったのだ。

素早い。早さで勝つ。こうしたスピードは、勝利を生むのでありカッコ良さであり、少年漫画が少年たちに刷り込ませた価値観だが、二十歳もすぎたあたりから、こうした感覚にムッとしてきたのだった。遅い、ドンクサイ、これこそが実は文明の持つ病を治す薬なのだと気づいたとき、大自然がもつ早さ、そうしたテンポに人間が調和してこそのスピードではないかと思い、僕は遅さのなかに『アタゴール』を『アタゴオル』と呼ぶべく、スペルの変更をよしとしてきた。それからずいぶん時がたってあるとき、最初に考えたATAGOALの文字の配列を見て、オッと思った。

「ATAGOALって、 AT・A・GOALなんだ。それって英訳すれば……「ひとつの到達点へ」となるじゃんか」。

現実にあふれる価値観にムッとして、別な空間を想像して写した世界、それは偶然にも「ひとつの到達点をめざして」という文字になっていたのだ。コレハシタリ、コレハ、イイ。

そうして今回の猫町原画展での記念グッズにと、前から依頼されていたアタゴオル手ぬぐいをデザインするとき、スペルは『ATAGOAL』となった。これは作者による公式的な2005年の改稿であります。イーハトーブが宮沢賢治によって、いくつかのテイクに変更されているように、アタゴオルもまた、スペルにおいて変更をして『ATAGOAL』となりますが、その呼び方はやはり『アタゴオル』となるのです。



手ぬぐい原物

では、今回収録の作品についての多少の裏話などを。

「根無」。長いシリーズもののあと、アタゴオルの地に、何度もどってきただろう。スイート・ホームへの帰還。長旅のあとに自宅に帰宅するときの、町並みの代わり映えのしなさが嬉しくなったりするのだが、旅から戻



ったときの数日間の不思議な違和感も、旅の終わりの儀式のようだ。僕にとっての一番の長い旅は、スペイン四十日だったが、それを一人旅でやったことは、いくつものシンドサと喜びを今でも強烈に残している。旅はしたほうがいい。若者たちは、どんどん、一人旅をしたほうがいい。ずーっと昔、僕が若者だったとき、いろんな年寄りが言った。「若い時はよ、苦労は買ってでもしたほうがいい」。この言葉を聞くたびに、「苦労なんか、しないほうがイイに決まってっぺしたあ」と思ったものだが、あれから何十年の結論は、その時の苦労は、無駄ではなく、次の飛躍になったり、先々の試練への強さになっていることは間違いない。そうした意味で、シンドイ一人旅は、強烈な体験になるのだ。

安楽の部屋でゴロゴロしてないで、旅へ出よう。

「火口観察」。表紙絵の元絵は、ウィリアム・ハミルトン伯爵。誰だそりゃ、カルトすぎて普通判りません。九六年フットボール欧州選手権が英国であり出かけた僕は、大英博物館での特別展のコーナーを見てびっくりした。ナポリのベスビオ火山噴火の絵が、何点もあり、それがとても素晴らしく美しいのだ。月夜の空と赤い溶岩、そして黒いベスビオを眺める人々。あまりの凄さにスケッチしようとすると、何故かスケッチ禁止とある。海外の展覧会や美術館はスケッチなど許可されているのが普通なのに、なんで禁止なのだ。しかもこんなに素晴らしい絵を前に、元火山小僧がおとなしく引き下がるわけがないと、見つからないようにスケッチしていると、スバヤク察知した監視人がドドドと来て、スケッチは禁止だと怒る。くーダメか……と見せかけてまたもや描いていると、また発見されて「コレ以上や



ると出て行けだぜ」とすごまれる。さすがに出ていくのは嫌なのでしみじみと眺めていると、監視員交代らしく、わざわざ次の奴を連れてきて、「アイツに注意だぜ」と忠告している。まったくチャップリンの映画みたいな「火山小僧と警備員」物語であったのだが、こうした絵画を描かせるため、画家をイタリアまで連れていった貴族がウィリアム・ハミルトンという人らしく、発掘したり観察したりと、相当の火山狂貴族だったらしい。こうした人の背後霊がとりつくと、昭和新山の館長さんになったりするのではないだろうか。



　さて物語は、壷湯に入って浮かんでいるのだが、この作品を描くために物語をひねりだそうとして、僕は近くの健康ランドの温泉に行ったのだ。そこでのお気に入りの壷湯にひたり、ああ、いい気持ちというこの極楽気分をなんとか物語にしようとして、休憩時の畳に腹ばいになって考えたのでありました。壷湯って小さなお湯宇宙です。



　『ホンノイノチ』。沢山の書籍が生まれ、一方で消えていく。この世界から一冊も無くなってしまう本もあるだろう。そうした本に意識があるのなら、どう思うのだろう。誰かが遠くて読みたがっている本よ、永久なれ、という気分で描いてみた。

　『独演会』。表紙は喜びに満ちている。大好きなフットボールチームFCバルセロナが六年ぶりにスペインリーグで優勝したからだ。バルセロナの町は優勝の瞬間から二日間、選手たちの凱旋でお祭り都市となった。ああ、行けばよかった。次の週に優勝じゃないか、などと予想してしまった自分が、おいしいおいしい感激の時刻を、あの町で味わうことを逃したこと、悔しくて悔しくて慙愧に堪え



ません。スミレ博士の服に十七とあるのは、リーグ優勝回数ですじゃ。

『ギンボン』。金色の魚シリーズ。この魚も長生きな奴だ。沼の主なのだろう。今回の目玉はドラネコ団であり、カッ



ラが可愛い。ドラネコ団のブチ丸・チャチャ丸・カツラは、もともと我が家に居た猫であり、3匹とも家出して



行方不明になってから二十五年もたっているので、すでにこの世にはいない。しかしアタゴオルで今も生きている。作品の生命というもののなかで大いなる時間を過ごしているんだなあ。

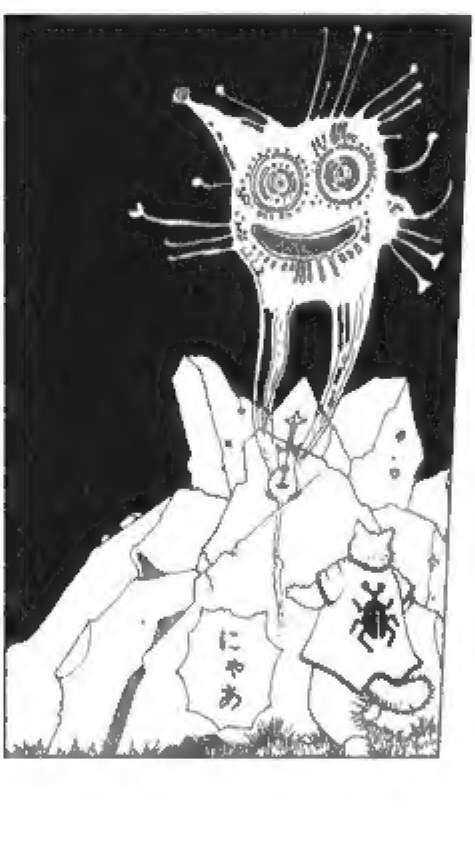
『モスモスッ葉』。録音の話だが、スタジオなどに入り、さあ行きましょうなどと本番録りなどをやると、キュウッと緊張が走り、こうした緊張に慣れてくる頃には終わって



いたりする。スタジオにひとりいて失敗などが続いたあと、みんながガラスの向こうで何か言いながら笑っていたりすると、「ああ、ワタシを笑っている。きっと悪口言っているんだ」というような妄想が起こったりする。天下の名手唐あげ丸さんの録音、バシッと決まらないところが、録音の厳しさなのだ。

『2626』。楽しいことばかりが待っているわけではなく、予想もしないところで落とし穴が待っている。僕はそうしたことを歌にしていたのだが、丁度この作品を描く夏のこと、見事にスポンと落とし穴に落ちた。そうとう気分が悪くブンムクレテいてもメ切りはやってきて、そうした気分のなかで描いたのだった。

『黄まだら水晶』。アタゴオルの動力といえば、象が引く荷馬車くらいで、自動車というものがない。文明の産



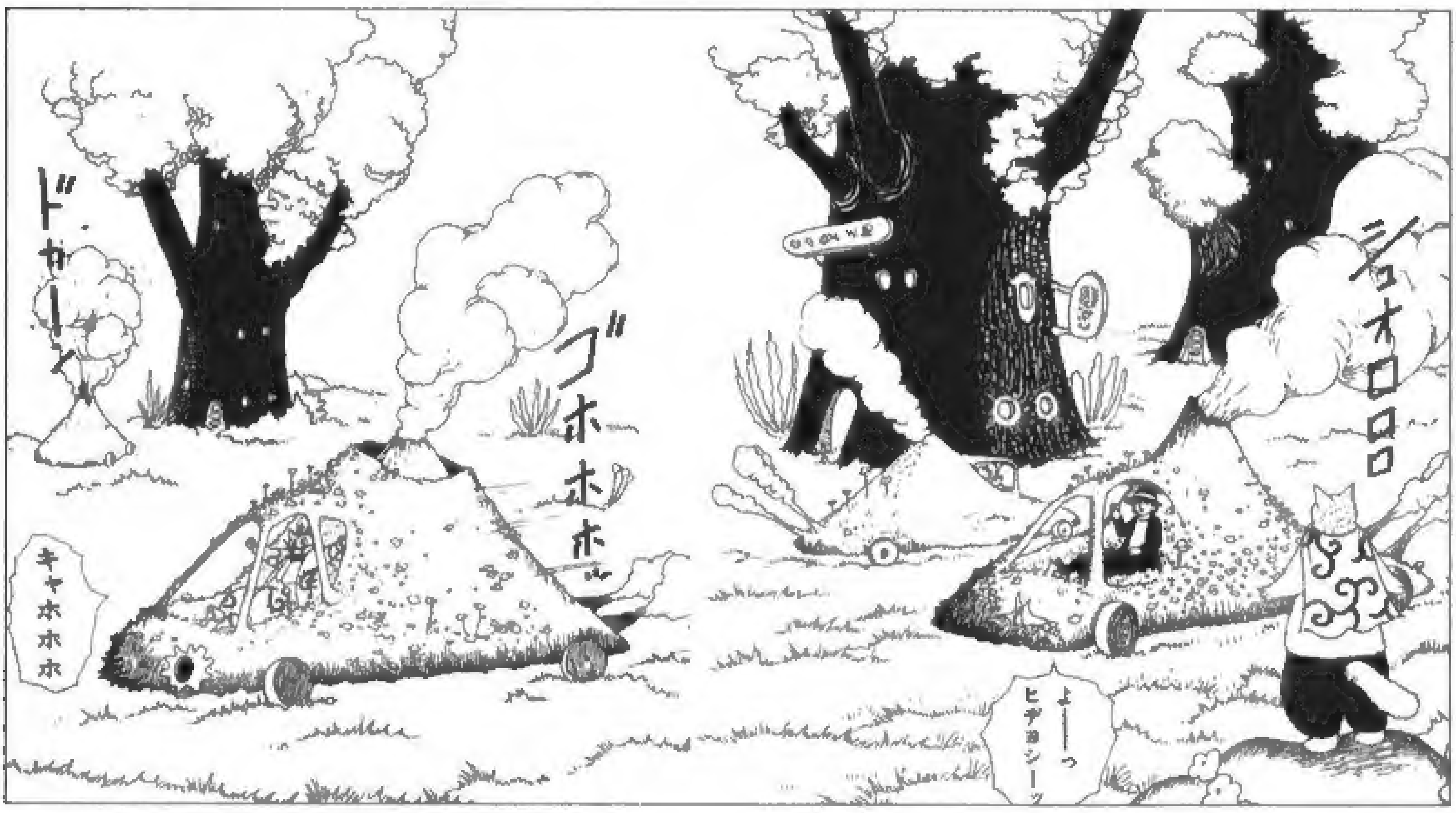
物である自動車を拒否したところに、あの森はあるのだ。だがもしも、火山のエネルギーに反応するような、星の地熱に反応するような車ができたら、どうだろう。火山自動車は、僕の夢だ。もくもく煙を噴いて走る風景、見たいものだ。

さて、アタゴオルは、大きく分けて四期になる。一回目はソノラマ時代の六巻。二回目は偕成社『アタゴオル玉手箱』時代の九巻。そして次がスコラ時代の二巻。そしてこのメディアファクトリー時代の『アタゴオルは猫の森』が、今回の単行本で九巻になった。単純に冊数を重ねれば二十六巻ということになる。約三十年の時間のなかで描かれてきた僕の記録なのだ。ときどきインタビューなどを受けると、「この先、どんなものを描いていきたいですか」という



質問をされることがよくあるが、計画性のない僕には、答えようがないのだ。まるで自転車操業のように、昨日フッと浮かんだことや、三日前の夢の欠片や、そうしたものがポカッと点滅すると、おおコレダと描いてきたのだし、これからもそうなのだろう。

描くことは、呼吸することなんだ。青息吐息、深呼吸、溜息。たくさんの大気を吸って、吐き出すのだ。



(初出) コミックフラッパー 2005年4月号～2005年11月号

MFコミックス
アタゴオルは猫の森……………9

2005年11月30日　初版第1刷発行

著者……………ますむら・ひろし

発行人…………松岡博治

発行所…………株式会社メディアファクトリー
〒104-0061　東京都中央区銀座8-4-17
TEL 0570-002-001　03-5469-4760(編集)

印刷・製本………大日本印刷株式会社

ISBN4-8401-1338-6 C9979